

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2020-12 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

過去ログ

あなたは現在、2020年Decemberの過去ログをしています。

December22日Tuesday: クスノキの木の下で

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

水の館の玄関前に植栽されたクスノキの木の下にたくさんの木の実が散乱していました。ほとんどがクスノキの黒い果実とその種子ですが、ほかにトウネズミモチ・ナンテン・ハゼノキ・ヒサカキの種子も混じっていました。

クスノキの果実を食べに来たヒヨドリやムクドリが、近くで食べたほかの果実の種子をペリットやフンとして排出したのでしょうか。

残念ながらコンクリートや石の上に落ちた種子は発芽できませんが、鳥の種子散布を実感できる場面でした。



クスノキの植栽

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



クスノキの樹名板...つぶれた果実からほのかに樟脳のかおりが漂っています



木の下に散乱した果実



クスノキの黒い果実



クスノキの果実を食べるヒヨドリ



クスの木の果実と種子



トウネズミモチの種子 (赤のマーク)



ナンテンの種子



ハゼノキの種子



ヒサカキの種子

水の館の周辺では、トウネズミモチ・ナンテン・ハゼノキ・ヒサカキが結実していました。鳥にとって冬の大事な食料源となっています。



トウネズミモチ



ナンテン



ハゼノキ



ヒサカキ

※「鳥の種子散布」に関するてがたんパンフレットはここからダウンロードできます。興味ある方は参考にしてください。

http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/tegatan2006_2016.files/tegatanpamph200611.pdf

http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/tegatan2006_2016.files/tegatanpamph200911.pdf

http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/tegatan2006_2016.files/tegatan2011.10.pdf

http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/tegatan2006_2016.files/tegatan2012.10.pdf

December17日Thursday: 手賀沼で"ミニ鳥山"を観察しました

カテゴリ: General

投稿者: odaya



△参考：オオミズナギドリの"鳥山"（10月 関東地方沖）

"鳥山"という言葉聞いたことがあるでしょうか。主に海の漁師さんの間で使われる言葉で、海面で採食している鳥の群れが、山のように見えることからこのように呼ばれています。鳥が食べているのはイワシなどの小型の魚の群れであることが多いのですが、その下にはさらにカツオやマグロなどのより大型の魚も集まっています。そのため、鳥山は魚の群れを探す目印として現在でも使われています。

12月15日に行った手賀沼水面調査で、小さな鳥山を観察しました。上空を飛んでいるのはクロハラアジサシ2羽とユリカモメ3羽ほどでしたが、水面には80羽を超える群れのカワウが集まり、にぎやかに魚の群れを追いかけていました。

このようなカワウの大きな群れは、手賀沼では12月から1月にしばしば見つかります。この時期には魚がより暖かい深い場所に集まっているので、そうした群れを狙っているのかもしれませんが。



△手賀大橋の東側に現れた小さな鳥山。水面に浮かぶカワウの群れと、上空を飛ぶユリカモメが写っています。



△水面のカワウの群れ。30cmくらいの大きな魚（フナ?）を飲み込んでいました。



△上空を飛んでいたクロハラアジサシ。ユリカモメと一緒に、カワウに追われて水面に上がってきた小魚を捕ろうとしていました。今回の調査では、最大同時に3羽が観察されています。手賀沼では2015年ごろから毎年越冬するようになりました。



△鳥山から少し離れたところで、5羽のミコアイサが潜水を繰り返していました。下沼の別の場所では、ほとんど白くなった雄の成鳥も1羽見つけました。

冷え込む日が続きますが、手賀沼沿いでは最も鳥の種数と個体数の多い時期を迎えています。十分に感染対策をなさったうえで、ぜひ観察にお越しください。

December11日Friday: 身近な白黒セキレイ

カテゴリ: **General** 投稿者: **mochizuki**

鳥の博物館で行っている自然観察会「てがたん」は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、12月も中止となっております。

さて、12月のてがたんのテーマは「白黒つけよう！2種のセキレイ」を予定していました。

手賀沼ではハクセキレイとセグロセキレイが生息しています。どちらも白黒で似ていますが、この2種に注目して観察してみましょう。

・2種の見分け方



左がセグロセキレイ、右がハクセキレイです。

セグロセキレイは顔全体が黒く、目の上に白い線(眉斑)があるのが特徴で、一方ハクセキレイは白い顔に黒い線が入ります。

さらに、ハクセキレイは雌雄や年齢によって背中や翼の色が異なるため、1羽1羽をじっくり観察するのもオススメです。



背中がグレーのこの個体は、初列風切羽が灰褐色の幼羽なので今年生まれの個体でしょうか。



こちらの個体は、翼を広げた時の風切羽の特徴から成鳥だと分かりました。頭の黒色が濃く、翼の白色部が多かったのがオスのように見えたが、細部を観察するまえに飛んでいってしまいました。

ハクセキレイ・セグロセキレイは手賀沼でとてもよく見られる身近な鳥です。ぜひ散歩の際には注目してみてください。

December 6日Sunday: クサガメしばしおやすみ

カテゴリ: General 投稿者: someya

3階ベランダで展示しているクサガメ水槽の冬支度をしました。クサガメは春まで冬眠します。夏にたっぷりエサを食べ、段々と食が細くなり、寒くなると食べなくなります。いよいよおやすみの時期です。

夏のアクティブなクサガメを楽しみにしている方も多いと思いますが、これからの時期はそっと見守って下さいね。





December 6日Sunday: 手賀沼沿いを歩いてみたら

カテゴリ: General 投稿者: someya

今日は風が穏やかでひなたはポカポカしています。こんな日はおでかけしたくなりますよね。新型コロナウイルスの新規感染者数や重症者数が増加する中、日々の行動に迷いながら過ごされている方も多いかと思います。今回は先日私が歩いてみられた手賀沼の姿を紹介します。



▲手賀沼

手賀沼の遊歩道は整備されていて、気軽に歩けます。自転車利用の方も多いで周りを気にしながら歩きましょう。



▲遊歩道は歩道と自転車道とに分かれています
いろいろな生き物に出会いました。一部をご覧ください。



▲マガモ



▲カワウ

距離があったので写真はボヤボヤです。すみません



▲コサギ



▲コブハクチョウ



▲スズメ



▲フジ

青空に黄色が映えていました



▲トウネズミモチ

ふらっと歩いただけで面白い出会いがあります。3密を避けて手賀沼観察はいかがでしょうか。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2020-11 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

過去ログ

あなたは現在、2020年Novemberの過去ログを見えています。

November27日Friday: 11月の自然観察の見どころ～てがたんのテーマ～

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [muramatsu](#)

鳥の博物館で開催している自然観察会「てがたん」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在は中止していますが、また皆さんと一緒に自然観察会を開催できる日を楽しみにしています。ご自身で散歩や自然散策をする際の参考に、手賀沼周辺の11月の自然観察の見どころを、これまでのてがたんのテーマからまとめました。

11月のてがたんテーマ一覧（雨天中止になったものも含む）

- 2020 「鳥と樹木の持ちつもたれつ」
- 2019 「モズのはやにえを探そう」
- 2018 「鳥の色、自然の色」
- 2017 「白樺派の見た我孫子の自然」
- 2016 「カモいろいろ」
- 2015 「カモいろいろ」
- 2014 「カモの衣替え」
- 2013 「木の実・草の実」
- 2012 「鳥の渡りとモズの高鳴き」
- 2011 「秋の樹木ウォッチング」
- 2010 「木の実、草の実」
- 2009 「木の実、草の実」
- 2008 「木の実・くさの実、ひっつき虫」
- 2007 「ヒツキムシを探せ」
- 2006 「赤い実を拾おう」
- 2005 「ひっつき虫とオナガガモの羽装観察」
- 2004 「手賀沼のカモを見よう」

秋といえば鳥の渡りの季節。てがたんコースは手賀沼の岸边にいる水鳥をじっくり観察できるので、冬鳥の中でもカモの仲間の観察は11月の定番のテーマです。

検索

ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

- [我孫子市鳥の博物館](#)
- [google.co.jp](#)



鳥の博物館手賀沼定例観察会

【11月のテーマ】
カモの衣替え

案内人: 沼見英博 (鳥の博物館市民スタッフ)

きれいなカモの雄の羽衣。羽はいつ抜けかわるんだろう？

手賀沼でカモが見られる季節になりました。カモは冬の間につがいをつくるので、越冬地に渡りする頃には雄は産毛へアピールするため、きれいな繁殖羽に徐々にかわります。カモは北の繁殖地で子育てが終わると、全身の羽が抜けかわり、歌に響かないように雌に似た目立たない羽衣にかわります。その羽衣をエクリプスといいます。今日のてがたんでは、カモの羽衣や行動を、観察してみましょう。

2014年11月8日(土)

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

2014年11月のてがたんパンフレット

渡ってきてすぐの頃のカモの仲間は繁殖羽に換羽中の状態（エクリプス）のものもいるので、羽の色の違いを観察して楽しむことができます。またモズの高鳴きも目立つので観察しやすく、この季節ならではのテーマです。

コガモってどんなカモ？

今日の生徒、コガモは「小さいカモ」ということから和名が付けられています。子どものカモ、という意味ではありません。その名の通り、日本産の淡水カモの中では最小で、ハトくらい大きさです。日本では、少数が北日本で繁殖するだけで、多くは冬になるとロシアなどから渡ってきます。

▲日本で繁殖地を離れたコガモの雄。アメリカに越冬地を定めた雄がある。(鳥類アトラスより転載)

てがたんコースで見られる冬鳥

関東地方の平地では、鳥の種類と個体数は冬に最も多くなります。11月には、多くの冬鳥たちが戻ってくる季節です。観察がやってくるたびに、鳥の数が増えるのを観察してみましょう。

見られた鳥にチェックしましょう

コガモの性別の見わけ方

北半球のカモの種類のオスは、冬にメスとつがいになるため、秋に美しい羽色に生え換わります。夏の間はメスと同じような暗味な羽色をしており、この羽衣をエクリプスといいます。完全なエクリプスのオスはメスにそっくりですが、以下の点に注目して見わけましょう。

頭部の模様は、オスの方が赤褐色が強く、メスの方が緑色の淡色の部分が多いです。

背中の羽の模様は、オスの方が黒い線（実線）が、メスの方が黒い線がぼやけている。

2016年11月のてがたんパンフレット

植物は木の実・草の実がテーマの回が多く、特に「くつつき虫」と呼ばれる動物にくっついて種子を運んでもらう植物の観察が人気です。かぎ状の突起や粘液でくつつく様子を観察しながら、植物たちの種子散布の戦略を知ることができ

ます。また、野あそびの素材としても子供たちに楽しんでもらえるテーマです。
落ちていどんぐりや木の実を拾って調べるのも楽しいですね。

1 ひっつく虫のくっつき方を調べよう 1や2がくっつく部分です。

トゲ状の突起でくっつく: トゲ(トゲ)の生えている向きを観察しよう。ほとんどのトゲはまきまきだぞ!

カギ状の突起でくっつく: カギ状突起は向きが異なるものなのを考えてみよう。例: ハエドクガサはがく、エビヒメジは羽根が突起になっている。

剛毛でくっつく: 小根毛状の突起がある。

粘着でくっつく: ノミから分泌液を出します。

2 秋の代表花・ヒヨコ種の見分け方

種名	市ノアサギイトウ	市ノガイヌビコ	イヌビコ
葉の形	葉は長く狭い卵形	葉は狭く長い楕円形	葉は狭く卵形
葉の付着(互生) [葉の生え方が特徴を導き出す]			
花・果実	小根が直立したトゲ状	葉裏が褐色	葉裏は緑色

3 果実? 種子? ツリスに観察しよう!

物に見かけるトチの実。むいてみると種がでてきました。では落ちてくるトチは、「実」でしょうか? 「種」でしょうか?

トチの実 → トチの種 → これはトチの? (クワと類似がある果実は?)

クワと類似がある果実は? (コウシュヤマゴボウの果実をよく観察すると、ある果物に似ています。その果物とは?)

目撃者: ママゴボウ

2008年11月のてがたんパンフレット

鳥の博物館手賀定例探鳥会

【11月のテーマ】
木の実・草の実

案内人: 古川茂雄、沼崎一史(鳥の博物館庶務スタッフ)

～観察を始める前に果実の分類を知ろう～

乾果 果皮が乾いている

①閉鎖果 果皮が裂けない
 堅果...クワ、クルミ、ハシナキ
 蒴果...コリンキ、センニンソウ
 蓇葖果...イロハモミジ、シシジユ

②裂開果 果皮が裂ける
 蒴果...コブシ、カツラ、コデマリ
 莢果...フシ、ハゴ、ニセアカシア
 蓇葖果...サルスベリ、ツツジ

漿果 果皮が肉質で多汁が多い

①液果...カキ、ブドウ、ナンテン
 ②核果...モモ、つみ、サクラ、ミズキ
 ③ナシ状果...ナシ、リンゴ、ナナカマド
 ④ミカン状果...ウンシュウミカン、ユズ

複果(集合果)

①花性のもの 多くの子房が成熟
 ①バラ状果...ノイバラ、ハマナス
 ②キイチゴ状果...キイチゴ、ブラックベリー

②多花性のもの 多くの花の集まり
 ①イチジク状果...イチジク、イヌビワ
 ②ウツ状果...ヤマゴボウ

*これ以外の果実の分類の方法や種類もあります

2013年11月9日(土)

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

2013年11月のてがたんパンフレット

掲載した過去のてがたんのパンフレットやレポートは博物館ウェブサイトからご覧いただけます。

<https://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/index.html>

November16日Monday: 手賀沼遊歩道の散歩で見かけた生き物
(鳥) 2020.11.15

カテゴリ: General

投稿者: saito



冬鳥のマガモが到来（右）！繁殖後の換羽が終わり、もうすっかりオスの繁殖羽になっていました。



冬鳥のコガモも換羽が徐々に進み、だいぶオスらしい羽色になってきました。



カルガモのオスが求愛ディスプレイをしていました。もう繁殖の準備が始まっています。



田んぼに入って二番穂を食べるカルガモの姿も見られました。



日本に渡来する野生のコハクチョウやオオハクチョウと同じように、外来種のコブハクチョウが田んぼに入って二番穂を食べる姿を最近よく見かけるようになりました。



立ち枯れたヒタゴボウやアメリカセンダングサの生えた田んぼに冬鳥のカシラダカの姿が見られました。これらの種子や二番穂を食べていたのでしょう。



冬鳥の代表、ツグミの姿も見られました。これからどんどん数が増えていくことでしょう。



オオバンが水中に潜って水草の地下茎を食べていました。水上の餌が少なくなる時期には、よく潜水して水中の餌を食べる姿が見られるようになります。



ヨシ原から非繁殖羽のバンが泳ぎだしてきました。繁殖期には真っ赤な額板の色が今はくすんでいます。



人家の庭の熟した柿の実に、ムクドリが群れていました。この時期の大事な食料源となっているようです。



午後4時30分、日が傾く頃、鳥の博物館の対岸のやや下流の上空を群れで飛び交っていた約1000羽のムクドリがヨシ原に降りてねぐら入りしました。

※鳥の博物館で毎月第二土曜日に行っている自然観察会「てがたん」は、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しています。でもこのフィールドとなっている鳥の博物館前の遊歩道周辺を数時間散策するだけで、鳥を始め木々の紅葉、花や果実、昆虫やクモなどさまざまな生き物や風景と出会うことができます。コロナ終息までのしばらくの間、3密を避けながら散歩がてらソコ観察会をしてみたいでしょうか。毎回楽しい発見があるはずです。身近な生き物情報は、このブログで順次紹介していきたいと思えます。

なお、鳥の博物館のウェブサイト（次のURLあるいはQRコード）では、過去に実施した「てがたん」のパンフレットとレポートのPDFを見ることができます。ぜひ散歩のお供にご利用ください。

<http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/tegatan/index.html>

November12日Thursday: 手賀沼の冬鳥続々到着！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

少し前ですが、10月28日に手賀沼の鳥類のカウント調査を行いました。この調査は、月に1回、手賀沼内の水面にいる鳥をすべてもれなく数えるもので、継続して行われています。その中から確認できた冬鳥をいくつか紹介します。



△カンムリカイツブリは秋から春にかけて手賀沼で見られる渡り鳥です。沼全体で42羽が数えられました。10月としてはやや多めの数で、これから12月にかけて数が増えてきます。



△カモ類も9月に比べて数が増え、コガモは398羽がカウントされました。この時期には、雄も雌に似た地味な羽色をしているため、雌雄の見分けが難しいです。この個体は雄で、お腹に灰色の雄の羽毛が見えています。これから徐々に羽が生え変わって、12月ごろにはきれいな生殖羽（せいしよくう）と呼ばれる羽衣をまといます。



△沼の真ん中の杭にミサゴが止まって、20cmくらいの魚（種類はわかりませんでした）を食べていました。



△オオバンは手賀沼では一年中みられる鳥ですが、冬になるとより北方から渡ってくる個体が増えて数が増えます。今回の調査では沼全体で214羽がカウントされ、写真のような数十羽の群れがいくつも見られました。

これから、手賀沼周辺での鳥たちは種類も数も増えていき、一年で最もにぎやかな季節を迎えます。三密を避けつつ、手賀沼沿いでの野鳥観察を楽しんでみてください。

November 4日Wednesday: 手賀沼遊歩道の散歩で見かけた生き物
2020.11.4

カテゴリ: General

投稿者: saito



ムクドリがムクノキの果実を食べにやってきました。ムクノキの果実は甘くて果実食の鳥には人気です。



親水広場の池では、カルガモのオス（手前）とメス（奥）が一緒に行動していました。

November 4日Wednesday: 手賀沼周辺鳥情報 2020.11/2

カテゴリ: General 投稿者: saito



冬鳥のミヤマガラスがやってきました。16:30ねぐら入りの前に我孫子郵便局前の電線にとまりはじめました。ハシボソガラスも混じっています。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2020-10 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29 30 31

過去ログ

あなたは現在、2020年Octoberの過去ログを見えています。

October14日Wednesday: 手賀沼の生き物

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

下見を兼ねて、手賀沼の生き物採集をしました。短時間でしたが、仕掛けにはたくさんの魚やエビが入っていました。コロナ禍で落ち着かない日々が続きますが、そんなことはよそに、いつもと変わらない生き物の様子をみるとホッとします。(採集数 スジエビ114、モツゴ77、タモロコ12、ヌマチチブ1 2020.10.12)



検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

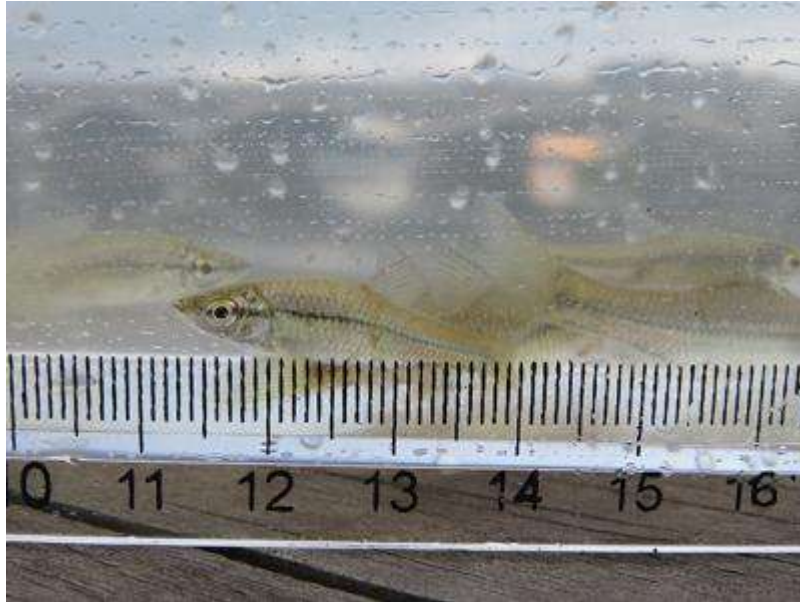
このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2020-06 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

過去ログ

あなたは現在、2020年Juneの過去ログをしています。

June16日Tuesday: 巣箱のフクロウのヒナが巣立ちました！

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

本日6月16日の午前6時26分に、巣箱のフクロウのヒナが巣立ちました。



▲6月16日6時26分7秒、巣箱の入り口に立って...

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)
google.co.jp



▲6月16日6時26分8秒、外側に出ていきました。巣箱は空になっています。

巣立ち前の5時台の映像を見ると、親が巣箱の中に入って巣立ちを促しているような行動が見られました。

<http://torihaku.strix.in/strix/html/2020061605m.html>

一人っ子で生育も順調であったためか、通常よりも2日ほど早い巣立ちとなりました。

これからおよそ1か月ほど、周辺の林で親の世話を受けながら、飛べるようになるまで成長していきます。

これからはばらくは親のフクロウが時々覗きに来るだけになると思いますが、来年の繁殖期を楽しみにお待ちください。

June12日Friday: フクロウのヒナに足環をつけました～記録～

カテゴリ: **General** 投稿者: **someya**

本日、ふくろう巣箱カメラで観察を続けているフクロウのヒナに、足環（標識調査の際につける環）をつけました。例年、巣立った後にヒナを探して（上手く飛べないため近くにいます）足環をつけていましたが、探している間、親フクロウに襲われる可能性が高いため、ヒナが巣箱にいる間に回収することになりました。山階鳥類研究所と協力して、標識・計測を行いました。

親からの攻撃が及ばないように、ガードをするために手作りしたボードをかかげ、親が向かって来た場合、回収できるようにかすみ網（所持・使用には許可が必要）をひろげ、いざヒナの元へ。



▲回収作業の様子



▲巣箱内の様子

ヒナ回収の瞬間です。ふくろう巣箱カメラの画像をご覧になって驚いた方もいらっしゃるかと思います。標識のための作業です。ご安心下さい。
回収前の観念した感じ？のヒナの様子は必見。ふくろう巣箱カメラの画像でご確認下さい。

ヒナを回収後、安全な場所に移動して、足環を付け、計測などを行いました。ヒナの体重は485gでした。孵らないままの卵も回収し、中を確認したところ、発生が進んだヒナの姿がありました。残念ですが、これも自然の一面です。



計測終了後、すぐにヒナは巣箱に戻しました。近年、作業中、親に襲われることがありましたが、今回は姿を見たものの襲われることはなく、無事に作業を終えることができました。



巣立ちの日はもう間もなくです。その瞬間をお見逃しなく！

注意：巣箱は立ち入れない場所にありますので、ふくろう巣箱カメラでご覧下さい。

June12日Friday: フクロウのヒナに足環をつけました

カテゴリ: General 投稿者: someya

観察を続けているふくろう巣箱カメラの速報です。ヒナは出入口に立つ様子

なども見られ、巣立ちの日が近付いているようです。標識調査のため、先程、巣箱内にあるフクロウのヒナに足環をつけました。孵らない卵も回収しました。

後程、こちらのブログでその様子をご紹介します。

June 5日Friday: フクロウのヒナ、ぐんぐん成長中！

カテゴリ: General

投稿者: odaya



▲6月5日の巣箱内のようす。大きくなったヒナと孵化していない卵が見えます。

フクロウ巣箱の最近の様子、ご覧いただいているでしょうか？ 結局2卵めの卵は孵化せず、今年のフクロウ巣箱は一人っ子となりそうです。両親が持ってくる餌を独り占めして？、日々どんどん大きくなっています。巣立ち予想日まであとおよそ2週間ほどとなりました。これから目に見えて成長していく様子をぜひご覧ください。

鳥の博物館は6月9日（火）から再開館いたします。しばらくの間、様々な制限付きでの開館となりますが、ぜひ感染対策をなさったうえで足をお運びください。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2020-05 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

過去ログ

あなたは現在、2020年Mayの過去ログをしています。

May25日Monday: 2020年の手賀沼オオヨシキリ調査

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

5月21日に、2020年の手賀沼オオヨシキリのカウント調査を実施しました。雄が最も活発にさえずるこの時期に、目立つ場所に出てきている雄の数を数え、手賀沼の環境の変化をモニタリングすることを目的に実施しています。

例年、この調査には我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、鳥博市民スタッフなどのみなさんに参加していただいているのですが、今年は新型コロナウイルスの感染対策のため、4月に行ったオオバン調査と同様に博物館スタッフだけで手分けして行いました。25日には手賀川の調査も行いました。



▲手賀沼沿いのヨシ原でさえずるオオヨシキリの雄。

今回は、手賀沼内では合計81羽、手賀川では63羽のオオヨシキリのさえずっている雄を数えました。手賀沼内の数は、やや多かった昨年（77羽）よりもさらに少し増えて、この10年では2013年（83羽）に次ぐ数が記録されました。ここ数年個体数が低迷していた上沼の北岸の個体数が少し回復したことが主な理由のようです。手賀川はここ5年の結果とほぼ同じになりました。

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

来年以降も、手賀沼の湿地環境を代表する2種であるオオバンとオオヨシキリのモニタリングを継続していきたいと考えています。

google.co.jp



May22日Friday: フクロウ巣箱の様子 -2つめの卵がまだ孵りません

カテゴリ: General 投稿者: odaya

5月18日に1羽目のヒナが孵化したことが確認できたフクロウ巣箱ですが、2つめの卵は、5月22日現在、まだ孵化していません。



▲今日の午前3時に雌が巣から出た時の様子。1羽のひなと卵が確認できます。

普通2-3日おきに孵化するので、ちゃんと生まれてくるのか少し心配です。引き続き様子を見守りたいと思います。

今日5月22日で鳥の博物館は30周年を迎えました。残念ながら休館期間中のため、館内の展示をご覧いただくことはできませんが、ウェブサイトのトップページにこれまで開催した企画展のポスターの一覧を載せています。ぜひご覧ください。

May19日Tuesday: フクロウのヒナ、1羽目がかえりました (2020.5.18)

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥の博物館で観察を続けているフクロウ巣箱の最新情報です。

5月18日(月)午後7時29分、1羽目のヒナの姿が確認できました。こちらのブログでご紹介しました通り、4月15日の午後6時半頃に1卵目を確認してから1ヶ月と少し。待ちに待ったヒナの姿です。



5月17日(日)午後7時26分には2卵あることが確認できます。



その後、卵をあたためているフクロウ(メス)は巣箱内にとどまったまま。卵が均等にあたたまるように体勢をかえている(転卵)様子も長時間分観察するとよくわかります。18日の朝5時から6時頃には卵の殻が見えていますが、ヒナの姿が確認できたのは夜です。

順調にいけば、2卵目も数日後には孵る予定です。ヒナは約1ヶ月後には巣立ちをむかえます。今後も巣箱カメラをお楽しみに。

May11日Monday: 手賀沼のコブハクチョウ (2020.5.8)

カテゴリ: General 投稿者: someya

ブログでも度々話題になるコブハクチョウの巣を見つけ、離れた位置から観察を始めました。「隣に見えるのは…」何とも言えない近距離にアオサギがいます。アオサギは多少、首の向きを変えることはありましたが、30分程この位置から動きませんでした。それ以上見ていると日が暮れてしまうので、私は先を急ぎました。お互い、何を感じていたのでしょうか。



▲コブハクチョウとアオサギ
近いですねー



▲田んぼの畦で採餌中のムクドリ



▲おまけで手賀沼の夕日

夕暮れは風が涼しくて気持ちが良いですね

コロナ禍中、不便なことが多くモヤモヤすることもあります。3密を避け、時間や場所を選びながら、近くの自然に目を向けて見るのもよいのではないのでしょうか。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2020-04 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3 4

5 6 7 8 9 10 11

12 13 14 15 16 17 18

19 20 21 22 23 24 25

26 27 28 29 30

過去ログ

あなたは現在、2020年Aprilの過去ログをしています。

April28日Tuesday: ミナミメダカの卵確認

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

コロナ禍の影響で当館は休館中ですが、生き物たちに博物館の休館なんて関係ありません。生き物の季節ごとの活動はどんどん進んでいます。

3階のペランダでは手賀沼に生息している水生生物を展示した小さなコーナーがあります。ブログで紹介しました通り、当館が観察を続けているフクロウの卵を先日確認しましたが、続けとばかり？に本日ミナミメダカの卵が確認できました。産卵は9月頃まで続きます。仔魚の誕生が楽しみです。



▲お腹の辺りに見える黄色の丸いものが卵です

検索

ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



▲正面から見るとまた違った良さがあります。5匹そろってゴレンジャー！

April 21日 Tuesday: 2020年の手賀沼オオバン調査

カテゴリ: **General** 投稿者: **odaya**

本日午前中に、毎年実施している手賀沼のオオバン調査を実施しました。例年は、我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、鳥博市民スタッフなどのみなさんに参加していただいているのですが、今年は新型コロナウイルスの感染対策のため、博物館スタッフ4名だけで手分けして行いました。



▲ナガエツルノゲイトウの周りで採食するオオバン。

今回は、合計127羽、9つがいのオオバンがカウントされました。個体数はここ数年回復傾向で、今回はこの10年では3番目に多いカウント数となりましたが、昨年の148羽からは少し減少しました。

オオバンの個体数カウントと併せて、コブハクチョウの生息状況の調査も行いました。手賀沼の全周で合計72羽が確認され、8か所で営巣（いずれも抱卵中）が記録されました。もう1か所営巣地点があるので、今期は少なくとも合計9か所で営巣しているようです。手賀沼の南岸では以前よりも田んぼに出てきている個体数が増えており、農業被害の拡大が心配されます。



▲巣の上に立つコブハクチョウの雌。3つの卵が見える。

April20日Monday: フクロウ巣箱、2卵目を確認しました

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥の博物館で観察を続けているフクロウの巣箱の最新情報です。

4月18日（土）午後6時55分、今シーズン2卵目となるフクロウの卵を確認しました。画像中央にうつる2つの白い丸が卵です。



時間をさかのぼってみてみると、4月17日（金）午後8時20分までは確かに1卵

であることが確認できます。その後、2卵目を確認できた時間までフクロウ（メス）は巣箱内にとどまったままでした。



フクロウはメスが卵をあたため、オスはメスやヒナにエサを運んだり、巣の周辺の防衛をします。オスがエサを運んでくる姿も確認できますので、ふくろう巣箱カメラの画像をぜひご覧ください。

April16日Thursday: フクロウ巣箱、1卵目を確認しました (2020.4)

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥の博物館で観察を続けているフクロウ巣箱の最新情報です。

昨日、4月15日午後6時34分、巣箱からフクロウ（メス）が出た後、巣箱内にキラリと光る白いものが！フクロウの卵です。今シーズンの1卵目を確認しました。フクロウは昨日の午前4時36分から午後6時34分まで巣箱にとどまっていた。

こちらの巣箱では例年、2～3日おきに1卵ずつ産卵、シーズン通して1～3卵確認されています。今シーズンはいくつになるのでしょうか。

無事に子育てがすすむと、約1ヶ月後にヒナの姿が見られ、その後、さらに約1ヶ月後にヒナの巣立ちがみられる予定です。この後もふくろう巣箱カメラの画像をチェックして下さいね。毎年楽しみにしているみなさん、チェックで忙しくなりますよ～。



午後6時34分、フクロウが巣箱から出ると...



午後6時34分、巣箱の中に卵がありました

April14日Tuesday: フクロウが巣箱を出ました、卵はありません

カテゴリ: General 投稿者: someya

先程お伝えしましたフクロウ巣箱の情報です。フクロウが巣箱を出ましたが、卵はありませんでした。このような様子が何度かみられると、いよいよ産卵かなと期待が膨らみます。今後は楽しみです。



April14日Tuesday: フクロウが巣箱に長時間滞在

カテゴリ: General 投稿者: someya

シーズン到来！すっかりおなじみになりましたフクロウ巣箱の最新情報です。
ふくろう巣箱カメラの画像に、巣箱に長時間滞在するフクロウの様子がうつっています。時間は、本日5月14日の午前5時頃から現在（午後4時だい）までです。もしかして産卵!?フクロウが巣箱を出るなど、何か動きがあると、卵が確認できるかもしれません。まだわかりません。要チェックです！

例年、館内でも巣箱の様子をご紹介しますが、鳥の博物館は現在休館中につき、ご覧いただけません。毎年楽しみにされているみなさま、ごめんなさい。鳥の博物館ウェブサイトからお楽しみ下さい。



April13日Monday: ふくろう巣箱カメラの画像復活

カテゴリ: General 投稿者: someya

見られなくなっていましたフクロウの巣箱カメラの画像ですが、ネット環境が修復できましたので、再びご覧いただけるようになりました。お待たせしました。

フクロウの巣箱での滞在時間が長い時もあり、今後が楽しみです。要チェックです！

April 11日 Saturday: 現在、ふくろう巣箱カメラの画像はみられません

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

フクロウの巣箱カメラの画像ですが、現在、ネット環境の不具合のため、みられなくなっています。しばらくお待ち下さい。楽しみにされている方、申し訳ありません。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2019-12 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

過去ログ

あなたは現在、2019年Decemberの過去ログを見ています。

December11日Wednesday: あびこ自然観察隊「夜の動物観察会」を実施しました！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

12月7日（土）に、あびこ自然観察隊「夜の動物観察会」を実施しました。14名の方にご参加いただき、冬の河川敷の生き物を夕方から夜にかけて観察しました。



当日は前日の予報はみぞれ、当日も15時ごろまで弱い雨が降っていましたが、集合時間の16時ごろには止んで、西の空には夕焼けも見られました。

まず、日没前のまだ明るい時間に、夜行性の生き物たちの痕跡（フィールドサイン）を探してみました。何も無いように見える草地やグラウンドですが、地面をよく探すと、タヌキの足跡や、ヤマシギが採食した跡が見つかりました。

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

我孫子市鳥の博物館
google.co.jp



△野球場に残っていたタヌキの足跡。



△ヤマシギの足跡と嘴を地面に差し込んでできた穴

河川敷で日没を待っていると、モズやツグミがねぐら入りする様子を観察できました。あたりが暗くなった17時ごろ、先ほどフィールドサインを見つけたあたりを照らしてみると、タヌキやヤマシギが出てきているのがすぐに見つかりました。



△草地に降りていたヤマシギ。

静かにそーっと近づけば、あまり驚かせずに観察することができます。ヤマシギは全部で14羽ほど、タヌキはのべ4頭ほどを観察することができました。最後に、夜の生活に適応したヤマシギ体のつくり、冬の生態や渡りについてお話しして、19時ごろ観察会を終わりにしました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。また鳥の博物館の自然観察会にご参加ください。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2019-08 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

過去ログ

あなたは現在、2019年Augustの過去ログをしています。

August 8日Thursday: 魚の観察会、こんな魚がいました

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

7月末に開催予定でした「手賀沼の魚をみよう」は悪天候のため、中止とさせていただきます。お申し込みいただきましたみなさん、本当にごめんなさい。「やってほしい」という声におこたえできるよう、また企画したいと思います。

当日朝、雨がザーザーと降る中、手賀沼に仕掛けをかけました。遅くなりましたが、どんな魚がかかったのか、どんな魚をみるはずだったのか、一部ご紹介いたします。

<手賀沼内の仕掛けにかかった生き物と数>

モツゴ65、タイリクバラタナゴ8、ツチフキ6、タモロコ4、ヌマチチブ1、スジエビ12、テナガエビ4



こんな魚がかかりました
1番多かったのはモツゴ

検索

ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



モツゴ

繁殖期にみられる追星が目立ちます（口まわりの白い部分）



ツチフキ



ヌマチチブ



テナガエビ



額にあるトゲの数も見分けるポイント



ミニ手賀沼の仕掛けにかかったコイ

ミニ手賀沼ではその他モツゴ、カダヤシ、ツチフキが入りました

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2019-06 >

日 月 火 水 木 金 土
1

2 3 4 5 6 7 8
9 10 11 12 13 14 15
16 17 18 19 20 21 22
23 24 25 26 27 28 29
30

過去ログ

あなたは現在、2019年Juneの過去ログをしています。

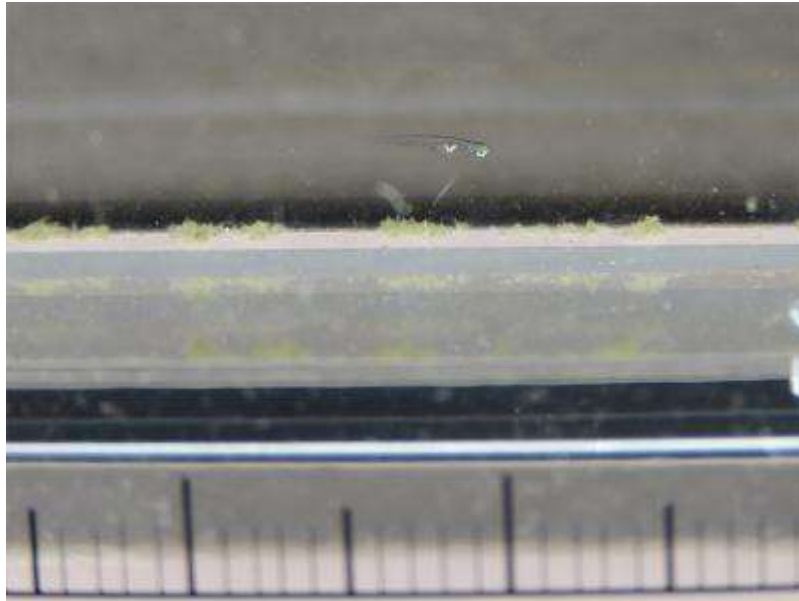
June 1日Saturday: ヨシノボリの仔魚たんじょう

カテゴリ: **General** 投稿者: someya

先日、メダカの仔魚についてブログで紹介しましたが、本日ヨシノボリの仔魚を確認しました。

数日前、石にびっしりと産みつけられた卵を確認していました。オスはせつせと卵の世話をして守っていました。

仔魚は展示していませんが、成魚のヨシノボリは鳥の博物館3階のベランダで展示しています。ぜひご覧下さい。



全長4mm程の仔魚

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

我孫子市鳥の博物館

google.co.jp



泳ぎ回る仔魚

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2019-05 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

過去ログ

あなたは現在、2019年Mayの過去ログをしています。

May22日Wednesday: ミナミメダカの仔魚誕生

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

先月、ミナミメダカの産卵のお話を書きましたが、本日、今シーズン初めてとなるミナミメダカの仔魚の姿を確認しました。

卵はすぐにかえるものばかりではなく、ダメになってしまうこともあります。仔魚の姿を確認できると毎年のことながら「今年も見られてよかった」と嬉しくなります。令和元年生まれのミナミメダカ...おめでたい。

仔魚はバックヤードで飼育中のため、展示はしていません。博物館3階のペランダでは成魚のミナミメダカを展示しています。ぜひご覧下さい。



レンゲの中で泳ぐミナミメダカの仔魚（レンゲの左端の方にいます）
まだ泳ぎも遅くレンゲで簡単にすくえます

検索

検索

ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)
[google.co.jp](https://www.google.co.jp)



ミナミメダカの仔魚
透き通ってきれい♪

May16日Thursday: 2019年の手賀沼オオヨシキリ調査を実施しました！

カテゴリ: General 投稿者: odaya



5月16日に、2019年の手賀沼オオヨシキリ調査を実施しました。5つのチームに分かれて手賀沼と手賀川を歩き、さえずっているオオヨシキリの数をカウントしました。我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、鳥博市民スタッフから合計8名のみなさんにご参加いただきました。



△ヨシに止まってさえざるオオヨシキリの雄。

手賀沼内では合計77羽、手賀川では65羽のオオヨシキリがカウントされました。ここ数年の中では多めの数となりましたが、1987年から96年まで行われていた調査では200羽前後がカウントされているので、そのころと比べると概ね1/3ほどに減っているようです。

参加されたみなさま、お疲れさまでした。

来年以降も、同様の時期にオオバンとオオヨシキリのカウント調査を継続して行っていきたいと考えております。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2019-04 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

過去ログ

あなたは現在、2019年Aprilの過去ログをしています。

April19日Friday: 2019年の手賀沼オオバン調査を実施しました！

カテゴリ: [General](#)

投稿者: [odaya](#)



4月17日に、2019年の手賀沼オオバン調査を実施しました。4つのチームに分かれて手賀沼の全周を歩き、オオバンの数をカウントしました。我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、鳥博市民スタッフから合計13名のみなさんにご参加いただきました。

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



▲沼沿いを歩きながらオオバン（右2羽）を探します。左にいる2羽はカルガモ。

合計148羽、14つがいのオオバンがカウントされました。個各地点の個体数、合計個体数ともに多めとなり、合計個体数は最近では2007年の180羽に次ぐ数となりました。一方で行動から推定されたつがいの数は昨年の13つがいからあまり変化がありませんでした。

今期初となるオオヨシキリの囀りや、ツグミやアオジなど沼周辺で越冬している冬鳥の旅立ち前の行動が観察でき、楽しみながら湖岸を歩くことができました。

参加されたみなさま、お疲れさまでした。

April18日Thursday: メダカも春らしく

カテゴリ: General 投稿者: someya

暖かい日が多くなってきました。少し前までとは違い、日ざしは強く、日焼けが心配な程です。

鳥の博物館3階のベランダには手賀沼周辺でみられる生き物を展示する小さなコーナーがあります。暖かくなり、生き物の動きもみられるようになってきました。ミナミメダカも動き回り、エサを食べるようにもなり、次に気になるのは産卵でした。楽しみにしていたところ、本日卵を確認できました。

生まれたメダカは、夏のイベントでみなさまのお手元に渡る予定です。楽しみに。



ミナミメダカ

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2019-03 >

日	月	火	水	木	金	土
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

過去ログ

あなたは現在、2019年Marchの過去ログをしています。

March30日Saturday: フクロウカメラが見られなくなっています

カテゴリ: **General** 投稿者: **odaya**

3月28日より、館内のインターネットの設備の改変にともなって、フクロウカメラが外部から見られなくなっています。来週中には復帰できる見込みです。なお、そろそろフクロウが巣箱に入る季節ですが、3月30日午前9時現在では、まだ抱卵がはじまっておりません。

しばらくお待ちいただければ幸いです。よろしくお願いたします。

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2019-02 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

過去ログ

あなたは現在、2019年Februaryの過去ログをしています。

February27日Wednesday: イソヒヨドリ目撃 (2019.2.25)

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

先日、我孫子市のお隣柏市にて、イソヒヨドリ（メス）を見ました。とある駅前の駐車場で車の下に鳥がいるのを発見。頭を低くしてこちらの様子をうかがっています。よく見えないので、離れたところからこっそり見ていると、姿をあらわしたのはイソヒヨドリでした。

元来、海沿いの岩場などに生息していますが、近年、市街地に進出してきた鳥です。我孫子駅周辺でも観察でき、さえずりや子育ての様子も確認されています。

私はこの辺りでは我孫子市、柏市、松戸市、流山市で見たことがあります。駅近くなどビルがある場所でみかけることが多く、岩場をビルにかえ、都市に適応している鳥と言えます。



February24日Sunday: モズのペア (2019.2.23)

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

手賀沼周辺を散策していると、モズのオスとメスの姿を見つけました。モズ

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

[google.co.jp](#)

は他の鳥よりも繁殖時期が早く、こちらのモズも2羽並んで木にとまっています。

オスがメスにエサを運ぶ求愛給餌がモズにも見られ、その様子が観察できるとワクワクしていました。



モズのオス（右）とメス（左）

オスは顔の黒い線がはっきりしていて、翼の白い斑が特徴

メスは顔の線が淡く、お腹の鱗模様が特徴

観察の様子を少しご紹介します。木から最初におりたのはオス。メスは木にとまったままです。少しするとメスも田んぼにおり、ひよこひよここと動き回ってエサを探していました。



田んぼにおりたメスのモズ

メスが田んぼの畦に出て来ました。オスがエサを運んでくるのを待っているのでしょうか、田んぼを見渡し、その場から10分もの間動きませんでした。



モズがどこにいるかわかりますか？遠くてすみません。



動かないモズ

その先にオスの姿があるのでしょうか

結局、求愛給餌の様子は見られず、風の強さに負けて撤退しました。野鳥観察には面白い季節です。ぜひ手賀沼散策にお越し下さい。

February15日Friday: 寒桜が咲きました (2019.2.15)

カテゴリ: General

投稿者: saito



鳥の博物館の近くの小学校にある早咲きの寒桜（カンザクラ）が満開です。



2羽のメジロが来て、花蜜を吸っていました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-12 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

過去ログ

あなたは現在、2018年Decemberの過去ログを見えています。

December13日Thursday: 手賀沼にオオハクチョウ渡来 (2018.12.13)

カテゴリ: General

投稿者: saito



鳥の博物館友の会会員より「鳥の博物館対岸の手賀沼にオオハクチョウが入っている」との情報を聞き、今日のお昼に確認して来ました。10羽いるとのことでしたが、一回見渡したところ2羽は確認できました。

一昨年冬から手賀沼でも複数のオオハクチョウが見られるようになりました。今シーズンはどんな冬越しをするのか楽しみです。

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-11 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28 29 30

過去ログ

あなたは現在、2018年Novemberの過去ログをしています。

November14日Wednesday: 鳥の博物館の裏山でオオシマザクラの花が咲き、メジロが吸蜜 (2018.11.11)

カテゴリ: General

投稿者: saito



検索

検索

ナビゲーション

前の月

次の月

今日の投稿

過去ログ

カテゴリ

全てのカテゴリ

General

お知らせ

観察会

観察会下見

昆虫

植物

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

我孫子市鳥の博物館

google.co.jp



鳥の博物館裏の斜面林には、近頃ヤマガラやシジュウカラやコゲラと一緒にメジロも姿を現します。メジロは、狂い咲きのオオシマザクラの花で吸蜜していました。10月1日未明に関東を通過した台風24号のもたらした塩害による桜の狂い咲きが各地で報道されていますが、これもその現れでしょうか？

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-10 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

過去ログ

あなたは現在、2018年Octoberの過去ログをしています。

October21日Sunday: ヤマガラ今年も来ています！ (2018.10.21)

カテゴリ: General

投稿者: saito



検索

検索

ナビゲーション

前の月

次の月

今日の投稿

過去ログ

カテゴリ

全てのカテゴリ

General

お知らせ

観察会

観察会下見

昆虫

植物

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

我孫子市鳥の博物館

google.co.jp

鳥の博物館の職員通用門の脇にあるエゴノキには、毎年9月に入るとニーニーと鳴きながらヤマガラが姿を現します。エゴノキの果実を嘴で一個つまんで、近くの樹の枝の上に運び両足でおさえ、嘴で堅い種皮を割って栄養豊富な胚乳を食べる姿を今年も毎日見ることができます。



エゴノキの果実



エゴノキの種子を割ってみると（おいしそうな？胚乳がたっぷり）

樹上のヤマガラのさらに上を、シジュウカラやエナガの混群がにぎやかに通過して行きました。



シジュウカラ（お腹の黒い縦線が太いオスのようです）



エナガ（下から見上げると長い尾羽が目立ちます）

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-09 >

日 月 火 水 木 金 土
1
2 3 4 5 6 7 8
9 10 11 12 13 14 15
16 17 18 19 20 21 22
23 24 25 26 27 28 29
30

過去ログ

あなたは現在、2018年Septemberの過去ログをしています。

September16日Sunday: 秋の気配！ (2018.9.16)

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)



手賀沼のハス群落の中に、冬鳥のコガモが姿を現しました。まだ地味な色の個体ばかりですが、これから徐々に繁殖羽に換羽し、派手な色彩のオスの姿もしだいに増えていくことでしょう。

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)



google.co.jp



沼縁のアカメヤナギの樹冠では、モズがさかんに高鳴きしていました。これから冬にかけて餌を捕るためのなわばりを主張しているのでしょう。



堤防の下の芝生に植栽されたヤマハギに、たくさんのアオドウガネが集まり、葉をさかんに食べていました。作物を食べるのは遠慮して欲しいのですが・・・。

September16日Sunday: ミズアオイの花みごろ！

カテゴリ: General 投稿者: saito



鳥の博物館3階ベランダに置いたトロ箱の中で栽培しているミズアオイが、今年は見事に花を咲かせました。昨年は発芽せず、消えたのかと思っていました。ミズアオイは1年草なので、一昨年に結実した種子が、トロ箱の泥の中で休眠していたのでしょう。

田んぼの雑草としてミズアオイはかつてはどこにでも見られましたが、除草剤の使用により全国的に減少しています。環境省の準絶滅危惧種、千葉県の重要保護生物となっています。

鳥の博物館のベランダで栽培しているミズアオイは、かつて鳥の博物館駐車場の前にあった田んぼの造成時に、水抜き用の水路を掘った際に発芽したものです。



紫色の雄しべが1本と黄色い雄しべが5本、めしべが1本見えます。紫色の雄

しべはつぼみの中での自家受粉用とのこと。



結実すると、茎の途中から折れ曲がり、果実を積極的に水中に運ぼうとします。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-08 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3 4

5 6 7 8 9 10 11

12 13 14 15 16 17 18

19 20 21 22 23 24 25

26 27 28 29 30 31

過去ログ

あなたは現在、2018年Augustの過去ログをしています。

August 9日Thursday: キジバトの巣材運び (2018.8.5)

カテゴリ: [General](#)

投稿者: [saito](#)



巣材の小枝を運ぶキジバト

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



造巢中のキジバトのつがい

観察会の下見のため、鳥の博物館前の手賀沼遊歩道を歩いていると、キジバトが目の前を頻繁に往復します。地面で小枝を拾って運び、巣作りしている最中でした。その場にいた5分間に3往復するのが見られました。

博物館周辺で繁殖する鳥の多くは、子育ての終盤に入りましたが、ほぼ一年中繁殖しているキジバトの子育ては、まだまだ観察できます。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-07 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

過去ログ

あなたは現在、2018年Julyの過去ログを見えています。

July 3日Tuesday: 昆虫の活躍する季節です (2018.7.3)

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

早くも関東平野では梅雨が明け、猛暑が続いています。

いよいよ昆虫たちの活躍の季節です。ヒグラシやニイニイゼミの声の情報も届いています。今日 (2018.7.3) エノキの樹冠部を、たくさんの昆虫が飛び交っていました。

この中で、飛翔するタマムシとゴマダラチョウを写真におさめることができましたので、ご覧ください。



6月下旬からタマムシ (ヤマトタマムシ) の飛翔が見られるようになりました。

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



外来種のアカボシゴマダラが増える中で、在来のゴマダラチョウが見られると安心します。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-06 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2

3 4 5 6 7 8 9

10 11 12 13 14 15 16

17 18 19 20 21 22 23

24 25 26 27 28 29 30

過去ログ

あなたは現在、2018年Juneの過去ログをしています。

June12日Tuesday: 最後のヒナも巣立ちました！

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

昨日6月11日の夕方18時30分、悪天候の中、3羽目のヒナも巣立ちました。巣立ちの様子は以下のページから見るすることができます。

<http://field.bird-mus.abiko.chiba.jp/strix/html/2018061118m.html>

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



18時30分37秒、巣箱の入口から踏ん張って...



18時30分38秒、飛び降りました。

全てのヒナが巣立ち、巣箱は空になりました。

これで、巣箱カメラから確認できることはほぼなくなりましたが、フクロウの繁殖はあと1か月ほど、巣の外で雛を育てる期間が続きます。来年の春にまた、巣箱に帰ってくるのを楽しみにお待ちください。ご覧いただきなさま、ありがとうございました。

June 9日Saturday: 【速報】フクロウのヒナ、2羽目が巣立ちました

カテゴリ: General 投稿者: someya

本日、6月9日17時38分、鳥博で観察しているフクロウの2羽目のヒナが巣立ちました。

残るヒナはあと1羽。巣立ちの 때가 近付いています。その瞬間をお楽しみに！



17時37分、巣箱の入口（写真上部）に立っているヒナの姿



巣箱の入口カメラの映像

「行くぞ」とばかりに姿勢を整えたヒナ



17時38分、2羽目のヒナが巣立つ瞬間



17時38分、2羽目のヒナが巣立ち最後に残るヒナ



2羽目のヒナが巣立ったすぐ後、巣箱にやってきた親フクロウ



3羽目のヒナと親とのツーショット

June 7日Thursday: **【速報】** 1羽目のヒナが巣立ちました！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

今日午後、今年最初のヒナが巣立ちました。

巣立ちの様子は、14時台のカメラのアーカイブから見ることができます。

<http://field.bird-mus.abiko.chiba.jp/strix/html/2018060714m.html>



14時46分19秒、2羽で入口に止まっていた右側のヒナが羽ばたき...



14時46分20秒、下に飛び降りていき見えなくなりました！

2番目のヒナも同じくらいの大きさに成長しているので、数日以内に巣立つと思われます。

少し小さい末っ子も順調に育っているようなので、このままいけば1週間以内には巣立ちが見られそうです。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-05 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

過去ログ

あなたは現在、2018年Mayの過去ログをしています。

May31日Thursday: 巣箱のフクロウのヒナが入口に立ちました

カテゴリ: General

投稿者: odaya



16時20分ごろ、巣箱の入り口に立つヒナ。

今日16時13分ごろから、フクロウの3羽のヒナのうち1羽が、巣箱の入り口に立ち始めました。30分ほど入口に立って、外の世界を眺めていました。巣立ちまであと1週間ほどとなり、ヒナの動きも活発になってきました。引き続きフクロウたちの様子を見守っていただければ幸いです。

May29日Tuesday: 婚姻色のサギの顔

カテゴリ: General

投稿者: saito

サギの間も繁殖期まっさかり。茨城県内のサギのコロニーで見られた、婚姻色のサギの仲間の顔です。目先の色、虹彩の色、くちばしの色、それぞれ個性的です。加えて、くちばしの形も、細長いものから比較的太いものまでさまざま

検索

ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)[google.co.jp](#)

まです。

(2018.5.22撮影)



ゴイサギ



アマサギ



ダイサギ



チュウサギ



コサギ

May20日Sunday: 仔魚を観察

カテゴリ: General 投稿者: someya

3階のベランダでは手賀沼に関連した水生生物を展示した小さなコーナーがあります。鳥博ではフクロウ巣箱の子育ての様子が話題になっていますが、こっそり魚の世界も大忙し。

5月初旬からミナミメダカの仔魚がぞくぞくと誕生しています。本日はヨシノボリの卵がかえり仔魚が観察できました。メダカの仔魚よりもヨシノボリの仔魚の方が小さく、来館者の方に見ていただくのに一苦労。

※仔魚はバックヤードで飼育していますので通常展示はしていません。



仔魚をレンゲですくって撮影。どこにいるかわかりますか？



拡大してみると、ヨシノボリの仔魚が3匹うつっています
既にヨシノボリっぽい感じです



ヨシノボリの成魚



おまけで、こちらはミナミメダカの子魚

May17日Thursday: 2018年の手賀沼オオヨシキリ調査を実施しました！

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

今日5月17日の午前中に、手賀沼のヨシ原でさえづっているオオヨシキリの数を数える調査を博物館市民スタッフ、博物館友の会と共同で行いました。結果は以下の通りです。

上沼北岸：2か所

上沼南岸：5か所

下沼北岸：4か所

下沼南岸：33か所

合計：44か所

参考：手賀川（曙橋～浅間橋）：61か所



さえずるオオヨシキリの雄。風が強かったため、この個体のようにヨシのてっぺんよりも少し下でさえずる個体が多く、姿が見つけづらかった。

風が強くさえずりのカウントには不向きな条件でしたが、過去で3番目に少ないカウント結果となりました。今後も、手賀沼のヨシ原環境の指標として、オオヨシキリの個体数調査を継続していきたいと思います。

May14日Monday: フクロウ巣箱、3羽目のヒナの姿確認

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥の博物館のフクロウ巣箱の情報です。3羽目のヒナの姿が確認できました。今シーズン、3卵全てが無事に孵化しました。3羽ならんでいる姿を見ると、先に孵化したヒナの方が大きいことがよくわかります。

どんどん大きくなっていくヒナの成長が楽しみです。ヒナが巣立つまでは約1ヶ月。フクロウ巣箱カメラの映像をお楽しみに！

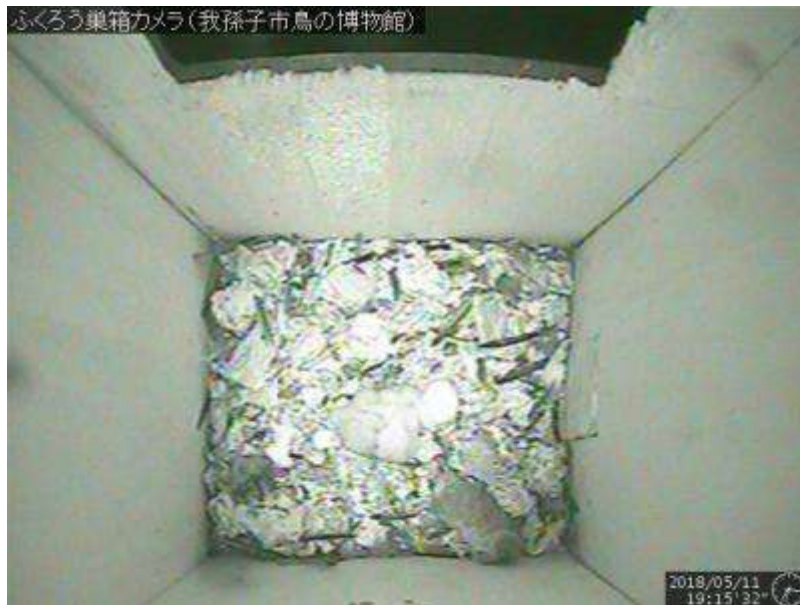


May11日Friday: フクロウ2羽目のヒナがふ化！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

さきほど、雌が巣箱の外に出ると、2羽目のヒナがふ化しているのが確認できました！

鳥博のモニターでは、元気よく鳴いているのが聞こえてきます♪



いちばん右に卵、左に小さいヒナが並んでいるのが見えます（19時15分）。



雌がすぐに戻ってきました。ヒナがまだ小さいうちは、親による保温が欠かせないので（19時27分）。

May11日Friday: フクロウはどんなものを食べてるの？

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

一羽目の雛がかえり、これから親フクロウは餌運びに忙しくなります。巣箱内から入り口を撮影している「出入り口カメラ」には餌動物を運ぶ親フクロウの姿が映っています。



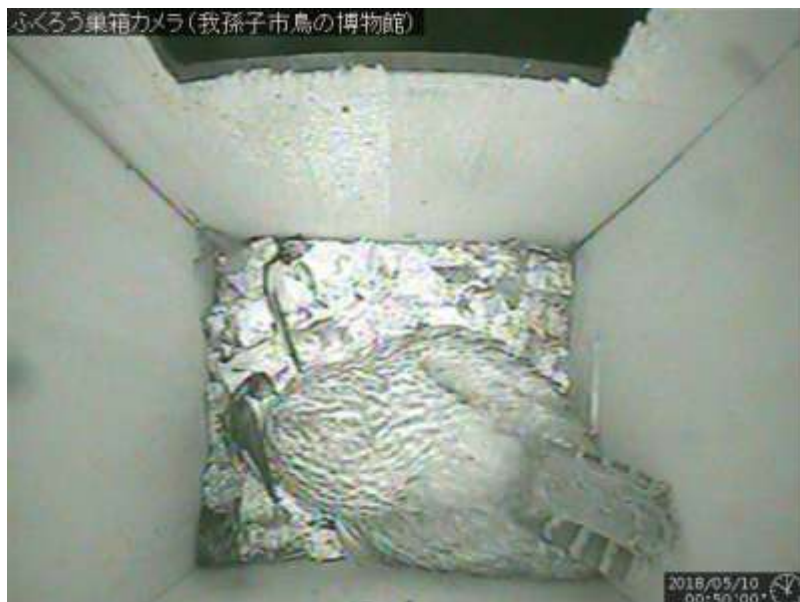
こんな風に映ります。



メスが外でオスから餌を受け取り、巣箱に運んできました。
この画像からは何かまだ分かりません。



翌日、天井のカメラをみると、おそらくクマネズミと思われるネズミが確認できました（右上）。



違う日にはツバメが2羽（左上）。

これまでの観察で巣箱には人家周辺にいる動物が多く運ばれています。これから他の雛もかえると親フクロウはますます忙しくなります。どんな餌を運んでくるのでしょうか。皆さんも、ぜひ出入り口カメラをチェックしてみてください。

<http://field.bird-mus.abiko.chiba.jp>

May 9日Wednesday: 鳥博巣箱のフクロウ、1羽目のヒナの姿確認

カテゴリ: General 投稿者: someya

先のプロブでフクロウのヒナについてお話がありました。

その1羽目のヒナの様子が5月8日18時48分に確認できました。ヒナは親のお腹の下にいますので、卵の殻が確認できてから、ヒナの姿が確認できるまで少々時間がかかりました。卵と卵の間でモゾモゾと動くヒナの姿が確認できます。

2卵目、3卵目の孵化も楽しみです。



May 8日Tuesday: 【速報】フクロウのヒナがふ化！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

昨夜、巣箱のフクロウのヒナの1羽目がふ化しました。



0時55分36秒、親がおなかの下から卵のからを取り出しました！

生まれたばかりのヒナは小さく、まだ雌のお腹の下に隠れて姿を見ることはできていませんが、鳥博のモニターでは元気なヒナの声が聞こえています。2羽目と3羽目のヒナも、あと数日でふ化するものと思われます。

これからヒナの成鳥が楽しみです。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-04 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

過去ログ

あなたは現在、2018年Aprilの過去ログをしています。

April27日Friday: 春のオオバン個体数調査の時に見た鳥など

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

2018年4月19日に行ったオオバン調査（前ブログで紹介）の時に手賀沼下沼南岸で見られた鳥をアップしました。



ヒメガマの若い茎を食べるオオバン。

検索

検索

ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)
google.co.jp



繁殖羽に換羽し、頭の黒くなったユリカモメ。



38羽のヒヨドリが上空を北へ向かって飛んで行きました。



巣が近くにあるのか、ハシボソガラスがトビを執拗に追い払っていました。



ホオジロがさかんにさえずっていました。



コブハクチョウが抱卵していました。





2018年3月28日の同ブログで紹介済みの標識付きのコブハクチョウが2羽(JK61とJK63)いました。

・観察した鳥 (V=視認、C=地鳴き、S=さえずり)

キジVC、コブハクチョウV、コガモV、ホシハジロV、カイツブリV、カンムリカイツブリV、カワウV、アオサギV、ダイサギV、コサギV、バンC、オオバンVC、コチドリC、セグロカモメV、トビV、モズVC、ハシボソガラスVC、ハシブトガラスVC、ヒバリS、ツバメV、ヒヨドリV、ウグイスS、オオセッカS、ムクドリV、ツグミV、スズメV、ハクセキレイV、タヒバリC、カワラヒワVC、ホオジロVS、アオジVC、オオジュリンC、コジュケイス

・確認したカエル (C=声、V=視認)

トウキョウダルマガエルC、ウシガエルVC、ニホンアマガエルC、シュレーゲルアオガエルC

April 19日 Thursday: 2018年の手賀沼オオバン調査を実施しました

カテゴリ: General

投稿者: odaya



本日4月19日、2018年の手賀沼オオバン調査を実施しました。市民ボランティアの皆さんと一緒に4つのチームに分かれて手賀沼の全周を歩き、オオバンの数をカウントして行動を記録しました。

合計111羽、13つがいのオオバンがカウントされました。個体数はここ数年100羽を超えて回復傾向ですが、確認できたつがいの数は前年並みでかなり低い水準にとどまっています。これは、ヨシ原の環境の変化によって繁殖のタイミングが変化していることと関連しているかもしれません。

今後もカウント調査を継続し、モニタリングデータを蓄積していきたいと考えております。

April13日Friday: フクロウの卵、3卵目を確認しました

カテゴリ: General 投稿者: someya

本日4月13日朝方の4時25分、鳥博巣箱内フクロウの3卵目の卵を確認しました。

これまでの鳥博巣箱での子育て記録では卵の数は3卵が最大です。

このまま3卵なのか、数が増えるのか。フクロウの子育てをお楽しみに。



オスのフクロウがメスにエサを運んできました

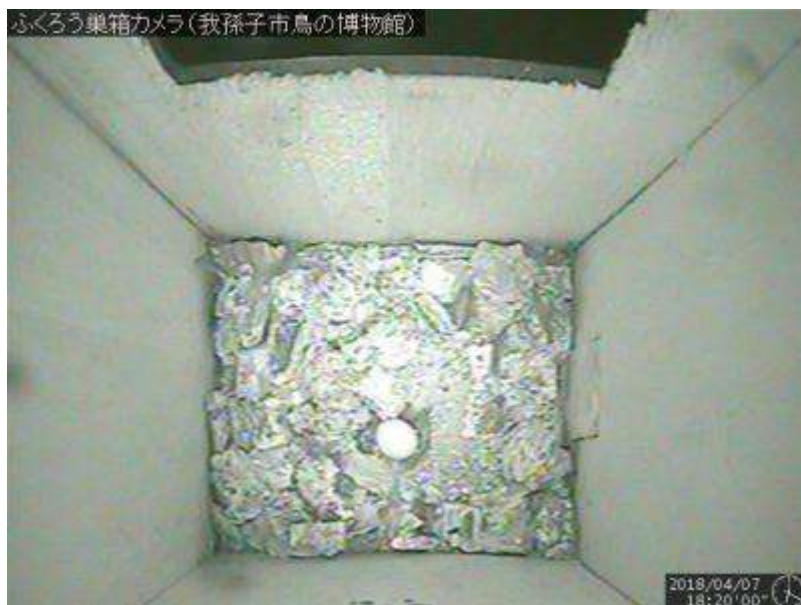


巣箱内でエサを受け取り、メスが外に飛び出した瞬間、巣箱内には3つの卵が！

April 10日 Tuesday: フクロウの卵を確認しました！

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [muramatsu](#)

7日の4時頃から巣箱に留まり続けているフクロウですが、同日の18時頃に1つ目の卵、10日の5時頃に2つ目の卵を確認しました。



フクロウの1つ目の卵



フクロウの2つ目の卵

昨年は4月5日に1つ目の卵を確認したので、ほぼ同じ時期です。

観察している我孫子のフクロウは2～3卵を産みます。

今年は3卵目の産卵はあるのか、あと数日はこまめにチェックが必要です。

皆さんも博物館ウェブサイトから、是非チェックしてみてください。

April 7日 Saturday: 鳥博巣箱のフクロウ2018

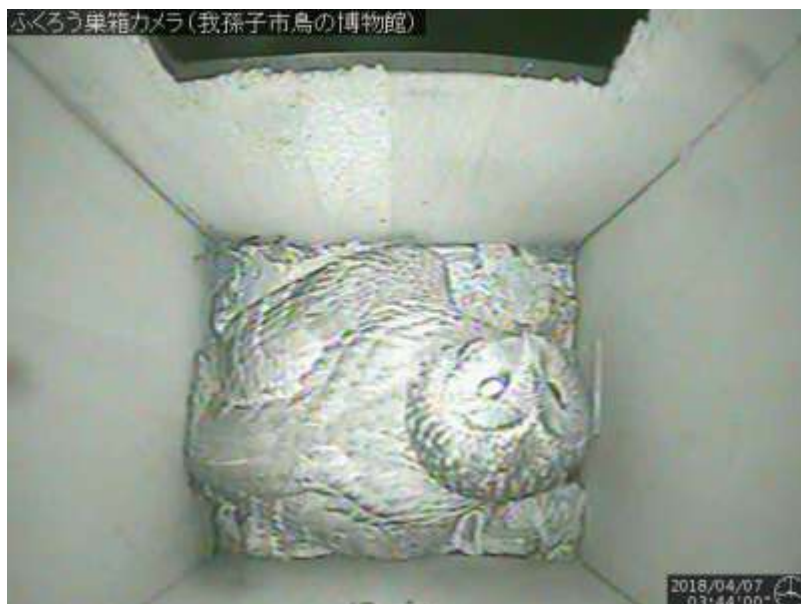
カテゴリ: General 投稿者: someya

本日3時43分、鳥博が設置しているフクロウの巣箱にフクロウ（推定メス）が留まり始めました。これまでも巣箱を覗きに来てはいましたが、いよいよ産卵の 때가近付いてきたようです。このままうまくいけば、今年もフクロウの子育ての様子がご覧いただけると思います。こちらのブログでも随時、情報を発信していきます。

フクロウ巣箱内の様子は鳥の博物館ウェブサイトと鳥の博物館内のフクロウコーナー（友の会ルーム内）でご覧いただけます。館内のフクロウコーナーでは音声も聞くことができます。孵化するまでが約1ヶ月、ヒナから巣立つまでが約1ヶ月です。ぜひこの機会にご来館下さい。



巣箱内を覗くフクロウ



巣箱の中に入ったフクロウ

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-03 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

過去ログ

あなたは現在、2018年Marchの過去ログをしています。

March30日Friday: 手賀沼の春を満喫

カテゴリ: **General**

投稿者: **minou**



手賀沼沿いの遊歩道ではサクラが満開になり、多くの方がお花見を楽しんでいます。私もお花見をしつつ、遊歩道を散策しました。サクラ以外にもいろいろな花が咲いています。

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



ハナズオウの花。濃いピンク色が目を引きます。



植え込みの下で咲いていたムラサキサギゴケ。



ユキヤナギの白い小さな花が一斉に咲いていて、壮観です。

また、鳥たちの食事風景も観察できました。



ヒヨドリが嘴を突っ込んでサクラの花の蜜を吸っていました。よく見ると、嘴やその周りには黄色い花粉がしっかり付いています。このように花の蜜を吸う鳥は、植物の受粉に一役買っています。

遊歩道を歩いていると、バシッと水面で音が。



ユリカモメが魚を捕らえて飛び上がるころでした。その後水面に降りて、時間をかけて飲み込んでいました。ユリカモメは夏には繁殖地へ渡りをするので、手賀沼で見られる数も少なくなってきました。

お花見の際には、サクラ以外の草木や鳥たちにも目を向けてみてくださいね。

March28日Wednesday: 春のおとずれ

カテゴリ: **General**

投稿者: **iwamoto**



手賀沼の桜も満開になりました。2018年3月28日撮影。生きものが姿を見せはじめると、春のおとずれを実感しますが、3月に姿を見かけた生きものたちを紹介します。



アズマヒキガエル。2018年3月11日撮影。夜道で見つけましたが…。翌朝、車に轢かれた姿になっていました。かわいそうですが、こちらも毎年お馴染みの光景です。お掃除屋さん（分解者）の生きものたちにとっては、ご馳走ができたことでしょう。



アメリカザリガニ。2018年3月13日撮影。岡発戸で一匹だけ見かけました。今月21日のブログの際にはいなかったようですが、目立っていたので、アオサギのお腹に収まったのかもしれませんが。



アオダイショウ。2018年3月28日撮影。木の上で丸まる姿はあまり見かけません。まだ寒いのでしょうか。芽吹いたばかりの柳の若葉もきれいです。

ちなみに、このような、「姿を見せた」ところは目につくのですが、逆に、「去ってゆく」ところはあまり気付きません。



手賀沼公園。2018年3月20日撮影。エサをやっていて、ユリカモメ、オオバン、カルガモが来ています。オナガガモも、いれば現われるはずなのですが、姿が見られません。

今年も、冬鳥たちはいつの間にかいなくなっていました。しかし、出現だけでなく、いつ去ったのかという記録も大事ですので、注意して見ていたいものです。

March27日Tuesday: 手賀沼のコブハクチョウに標識を行いました

カテゴリ: General

投稿者: odaya



緑色の首環と発信器を装着されたコブハクチョウ2個体。

3月20日に、手賀沼下沼でコブハクチョウ3個体に標識を行いました。
調査の目的など、詳細については以下のページをご覧ください。

<http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/info2/kobuhaku.html>

March27日Tuesday: ツバメ、我孫子に渡来！

カテゴリ: General

投稿者: odaya



ツバメ雄成鳥 3月24日 手賀沼下沼北岸にて

例年、手賀沼周辺では3月中旬から下旬に最初のツバメが飛来します。今年は3月18日に上沼で群れを目撃した情報をいただきましたが、博物館学芸員は手賀沼周辺では23日の手賀沼調査の際に下沼北岸で2羽がさえぎりながら飛び回るのを確認したのが初認でした。24日には博物館若松の交差点でも飛び回ったり電線に止まっているのが観察できました。

市民農園や親水広場の桜も開花が進んでおり、いよいよ春本番という感じです。

博物館がかけているフクロウの巣箱には、ときどき覗きに来ていますが、まだ巣箱の中には入っていません。今年の繁殖は例年に比べてやや遅れているようです。4月に入ってから巣箱に入り始めた例もありますので、引き続き見守りたいと思います。

March21日Wednesday: 春の谷津田

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

最近はや暖かくなってきたかと思いきや、暑かったり寒かったりと着るものに困ります。本日は春の谷津田観察会の予定でしたが、雨のため中止となりました。

先日行った観察会の下見（2018.3.14）での様子をご紹介します。ウグイスの声があちこちで聞こえました。



昔、海が入り込んできて退いた跡を「谷津」や「谷津田」などといいます。まわりの斜面林と接する底には台地に降った雨水がしみ出します。



ビンズイ

枝をちょこちょこと歩いていました



ニワトコ

葉がひろがってきていました



満開のウメ



ニホンアカガエルの卵塊
丸型。殆どの卵塊が崩れオタマジャクシになっていました



アズマヒキガエルの卵塊
ホース型。まだホース状のものが多く見られました



ミナミメダカ
めだか〜の学校は〜♪



ルリタテハ♂
クヌギやコナラなどの樹液や腐果等に集まります

春の散歩に持ってこいの場所です。生き物は持ち帰らずにその場で楽しみましょう。

March17日Saturday: フクロウの巣箱 ～最新情報～

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [muramatsu](#)

鳥博で観察しているフクロウの巣箱の最新情報をお伝えします。

我孫子のフクロウは3月中旬から繁殖を始めることが多く、最近では日中でも巣箱近くで鳴き声が聞こえ、毎日巣箱をのぞきにやっています。



カメラには巣箱の入り口にとまり、外に向かって鳴くオスの姿



巣箱に入って中の様子を確認するメスの姿

今のところ、メスもオスも少しの間、巣箱に入るだけですが、産卵すると、長時間メスが巣箱の中にとどまるようになります。

スタッフの中では、何日に1つ目の卵を産むのかで盛り上がっています。ぜひ、ウェブサイトのトップページから巣箱の中の様子をご覧ください。
<http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/index.html>

March 2日Friday: 博物館周辺の桜情報2月下旬～3月上旬

カテゴリ: General 投稿者: saito



博物館付近の小学校のグラウンドの‘カンザクラ’が咲きました。(2018.2.28)



博物館通用門の‘オカメ’は、花芽がほころびはじめています。(2018.3.1)



手賀沼沿いでは‘カワヅザクラ’が咲きました。(2018.3.2)



手賀沼沿いの‘ソメイヨシノ’の冬芽も、だいぶふくらみはじめています。
(2018.3.1)



開花した花には、吸蜜のためメジロがやってきます。（2018.2.25上野公園‘カンザクラ’）

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-02 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3

4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17

18 19 20 21 22 23 24

25 26 27 28

過去ログ

あなたは現在、2018年Februaryの過去ログを見ています。

February22日Thursday: 手賀沼沿いでもイソヒヨドリを確認

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [iwamoto](#)

我孫子駅前で繁殖が確認されているイソヒヨドリについて、最近手賀沼沿いでも姿を目にするという情報を、当館友の会会員の方から頂いておりました(いつも情報提供、ありがとうございます)。

そして本日、実際にその姿を写真に収めることができましたので、報告させていただきます。



オス1羽のみで、メスは見かけませんでした。

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



ちなみに、この写真を撮ったときは小雪が舞っていました。



ここは手賀大橋のすぐ近くで、いつもは高校生の部活動の練習が行われている賑やかな場所です。しかし、今日は練習が行われておらず、静かでした。もしかすると、雪が降っていたので出会うことができたのかもしれませんが。

今の時期はツグミをよく見かけますが、イソヒヨドリが地上付近に降りている時もありますので、何かが違うと感じたら、是非、足を止めてよく御覧になってみて下さい。

February 2日Friday: 手賀沼にトモエガモの群れが飛来

カテゴリ: **General**

投稿者: **odaya**

昨年末から、手賀沼でトモエガモの群れが見られています。日によってはいない時もあるようですが、1月30日に行った月例の手賀沼調査では、下沼の下流側の水面に降りている46羽の群れをカウントしました。手賀沼でこれほど大きな群れが見られるのは、2002年に40羽が見られて以来のようです。



飛び立ったトモエガモの群れの一部。一緒にマガモ2羽も写っています。

トモエガモは、かつては数十万羽の大群がみられ、古来から「あじがも」と呼ばれていました。「あじ」とは、多くの数が集まっているという意味で、大群を形成することから名づけられたようです。しかし、近年では日本への飛来する個体数が減少し、昔のような大きな群れは見られなくなりました。2015年の環境省のレッドリストでは、絶滅危惧II類に指定されています。

ここ数年は、20kmほど離れた北印旛沼で1000羽を越す大群が観察されているので、その一部が手賀沼にも時々飛来するようになったのかもしれませんが。この美しいカモの群れが手賀沼で見られるのは嬉しいことです。観察されたい方は、下沼のフィッシングセンター付近から望遠鏡等で沼の中央部あたりを探すとよいでしょう。

2月11日（日）に実施予定のあびこ自然観察隊「オーイ冬鳥くん」では、このあたりで冬鳥を探すので、トモエガモも観察できるかもしれません。申し込みは手賀の丘少年自然の家までお願いします。

<http://www.tega.jp/archives/2058>

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2018-01 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

過去ログ

あなたは現在、2018年Januaryの過去ログを見えています。

January21日Sunday: 幻想の中に

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [iwamoto](#)

今朝は冷え込んで、辺り一面が霜で真っ白になりました。



検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)

[次の月](#)

[今日の投稿](#)

[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)

[General](#)

[お知らせ](#)

[観察会](#)

[観察会下見](#)

[昆虫](#)

[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

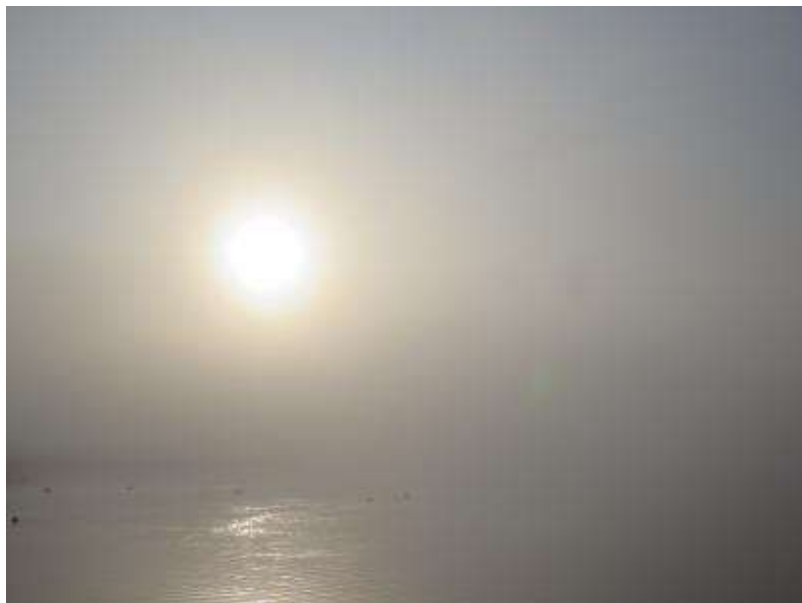
このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



さらに、手賀沼では霧が立ち込めました。対岸が見えません。



「てがたん」でよく行く、けやき広場。



「てがたん」でよく行く、藤棚の周辺。



鳥たちの様子です。まずはアオサギ。



ホオジロはさえずっていました。



クロハラアジサシ。

姿がはっきり見られないと、
がっかりされる方もいらっしゃるかもしれませんが、
このような景色が見られる日は、一年でもごくわずかです
(まるで水墨画のようです)。



しかも、霧が濃かったのは短時間で、
朝8時を過ぎると、次第に視界も元に戻っていきました。
今朝のような景色を楽しめるのは、
沼の近くに住む人たちの特権なのかもしれません。

最後に、霧の日に探すと面白いものをご紹介します。
清少納言の『枕草子』126段に

「透垣の羅紋、軒の上などにかいたる蜘蛛（クモ）の巣のこぼれ残りたるに、
雨のかかりたるが、白き玉を貫きたるやうなるこそ、
いみじうあはれに、をかしけれ。」

とあります。

この蜘蛛の糸を、雨ではなく霧の日に御覧になると、さらに「あはれ」や「をかし」を感じられるかもしれません。霧では、雨滴よりもっと細かい水の粒が付きますので、糸の一本一本がはっきりと見えるようになります。霧の出ている短い間しか見られませんが、是非一度、お探しになられてみて下さい。



この写真は、手賀沼のものではないのですが、9月に兵庫県豊岡市で撮影したドヨウオニグモです。

January17日Wednesday: ヒヨドリの食事

カテゴリ: **General** 投稿者: **someya**

我孫子近隣での様子です。ヒヨドリが飛び回り、ハボタン、ピラカンサ、ブロッコリーと場所を変え食事をしていました。時々こちらを見ますが、それどころではないと言った感じで食べていました。野外にエサが少ないこの季節は野鳥が庭にもよくやってきます。そっと外の様子を見ると夢中でエサを食べている野鳥が見られるかもしれません。



ヒヨドリがブロッコリーにとまりムシャムシャ採食中



葉を引きちぎって食べています



少しの時間でかなり食べられています

January13日Saturday: 朝は氷の世界

カテゴリ: General 投稿者: someya

博物館の3階ベランダには手賀沼に関連する水生生物の小さな展示があります。屋外で飼育していますので、今の季節は魚やカメにとってはお休みの季節。水草も枯れ、春にむけてお休み中です。

朝一、水槽の様子を見に行くと目立つのは氷。何気なく見ている氷や霜も、じっくり観察してみるとキラキラしてキレイです。こんなのんきなことを言っているは大変な地域の方に申し訳ないですね。



ベランダの花壇には一面霜が



水面にはった氷の厚みは1センチ程

January 8日Monday: ミソサザイあらわる

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

昨日、博物館の裏山に行ってみると、落ち葉の中からカサカサと

何かが動く音がしたので、じっと見ているとミソサザイが姿を現しました。



枯れ葉の中で餌を探すミソサザイ



枝にとまるミソサザイ

(写真：染谷実紀)

ミソサザイといえば夏の高山の溪流というイメージが強いですが、冬になると暖かい平地にも移動し、人家近くの林でも見られることがあります。千葉県では東京湾沿岸で見られた記録もあります。

去年の夏、避暑地に行けなかった私にとっては、今年はずめのミソサザイとの出会いとなりました。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-12 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

過去ログ

あなたは現在、2017年Decemberの過去ログをしています。

December23日Saturday: ふくろう巣箱のメンテナンスを行いました

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

12月22日の午後に、フクロウ巣箱のメンテナンスを行いました。来年春にフクロウが繁殖する前に、昨年巣箱に残った食べ残しを回収し、新しい木のチップを入れました。

掃除の様子はカメラの過去のアーカイブから見る事が出来ます。

<http://field.bird-mus.abiko.chiba.jp/strix/html/2017122215m.html>

ちょっと遅くなってしまいましたが、フクロウが来年も巣箱を使ってくれるよう、見守りたいと思います。

December20日Wednesday: 足環付きのハクセキレイ

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

12月15日のこと、昼休みの外出から戻ると、鳥博の通用口の横にハクセキレイがいるのに気が付きました。ずいぶん建物の近くにいるな、と思いながら横目でちらっと見ると、右脚になにか付けられているのが分かりました。どうも金属足環のようです。双眼鏡で見ると、確かに環境省の金属リングであることが分かりました。また、このハクセキレイは雌の成鳥であることも羽の色の特徴から分かりました。

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)



google.co.jp



そこで、望遠レンズを準備し、足環に刻印された番号を撮影してみることにしました。小鳥に付けられた足環はとても小さく素早いので、双眼鏡を使っても番号を読みとることは難しいのですが、撮影した画像を拡大すると読みとれることがあります。

ハクセキレイはもう1羽（雄の幼鳥と思われます）と2羽で一緒に行動しており、素早く歩き回っていたので、難しかったのですが、何カットか撮影し、足環番号のうち下3けたを読みとれる画像を撮影することができました。



「030」と読みとれます。この部分は鳥の足の太さによって変わる「ガイド番号」と呼ばれるものです。



「92」と読みとれます。



「24」と読みとれます。この2は前の「92」の続きなので、下3桁が「924」であることが分かりました。

撮影して判読できた番号と画像を山階鳥類研究所の保全研究室に送ると、この足環がどこで付けられたか教えてもらえます。また、目撃情報は標識調査全体のデータベースに登録され、どこからどこに移動したか、何年生きたか、などの情報が蓄積されていきます。

私も早速問い合わせてみました。

このハクセキレイには「環境庁」と刻印されているリングが付けられており（現在では、普通「kankyosho」という刻印が使われています）、かなり昔に付けられたものではないかと思っていました。自分の観察した鳥がどこからきたのか、何年生きているのかなどの由来を知るのはとてもわくわくすることです。

すぐに保全研究室のスタッフの方から返答がありました、その答えは、意外にも、「2014年12月26日に高野山で標識放鳥したハクセキレイ雌幼鳥でした」とのことでした。詳しくお聞きしてみると、隣の山階鳥類研究所の建物の中に迷い込んだところを保護されたものだったそうです。

今回のケースでは、移動距離はたった50mほどでしたが、幼鳥の時に越冬した場所と同じところに帰ってきていること、現時点で生後4年目の冬を迎えることなど、観察だけでは決して分からないことが足環から分かりました。こうした記録がデータベースに加えられることで、将来様々な研究に利用可能な情報が蓄積されていくのです。

足環の付いた鳥を見つけたら、あるいは撮影した鳥の写真に足環番号が写っていたら、ぜひ山階鳥類研究所の保全研究室までお知らせいただければと思います。きっと面白い発見があると思います。

連絡される際は、以下のウェブサイトを参照してください。

足環の付いた鳥を見つけたら

http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa_index.html#ashiwa

鳥類標識調査について、もっと詳しく知りたい方はこちら

<http://www.biodic.go.jp/banding/>

December 5日Tuesday: 近隣のガンやハクチョウの渡来情報

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)

・ 稲波干拓で越冬するオオヒシクイ (2017年11月20日)



茨城県の霞ヶ浦江戸崎入干拓地（通称稲波干拓地）は、関東で唯一50羽前後のガンの仲間が毎年渡来する場所として知られています。今年の初渡来は11月10日だったそうです。12月3日現在、116羽のオオヒシクイが確認されています。

この干拓地でまとまった数のオオヒシクイが越冬するようになったのは、1985年以降です。その数は、年々増加し、今では100羽を超えるオオヒシクイが越冬しています。

毎日の詳しい情報は、オオヒシクイの保護活動を行っている稲敷雁の郷友の会のホームページをご覧ください。

↓

<http://relaxbach.sakura.ne.jp/hisikui/>

・旧本埜村（印西市）の水田で越冬するコハクチョウ（2017年12月4日）



千葉県印西市の本埜地区の水田では、1992年に水田に渡来したコハクチョウに餌付けして以来、毎年コハクチョウが越冬するようになりました。その数は年々増加し、現在では毎年ピーク時で1000羽以上が越冬しています。この場所は、本埜白鳥を守る会が「白鳥の郷」として保全管理しています。

今年も11月12日に初渡来が観察され、12月4日現在128羽が確認されています。コハクチョウのほかにオナガガモや少数のオオハクチョウも越冬しています。

渡来地の近くの本埜第二小学校のホームページでは、ほぼ毎日コハクチョウの動向を紹介しています。

↓

http://inzai.ed.jp/motononi-e/?page_id=159

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-11 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

過去ログ

あなたは現在、2017年Novemberの過去ログを見えています。

November28日Tuesday: 東京の鳥情報

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [iwamoto](#)

11月13日から17日まで、本郷の東京大学キャンパスで開催されていた公開講座に参加しておりました。そのときに本郷で撮った1枚を紹介します。我孫子の鳥ではないのですが、野生化したワカケホンセイインコです。原産地はインドとその周辺国ですが、都内では飼育個体の野生化したものが増えています。我孫子でもいつか見られる日が来るのでしょうか。



ちなみに、都内における繁殖地としてかつて有名だったのは、東京工業大学の大岡山キャンパスでした。しかし、東京工業大学から来られていた方の話では、大岡山では現在、見られなくなっているとのこと。それが本郷で見られるということは、キャンパスの環境が好きなのでしょうか。レンガの壁に垂直にとまる姿は、日本の在来種ではあまり見られない、新鮮な光景でした。

November19日Sunday: 秋真っ只中

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

今朝、通勤途中で見かけた鳥をご紹介します。

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)
[google.co.jp](#)

まずは後ろ姿です。翼に白い斑があるのが特徴です。オス・メスともに、この斑があります。



正解は...



じゃん！ジョウビタキのメスでした。こちらをチラチラ見えています。オスの場合、頭が銀で顔が黒く、メスよりも色合いがはっきりして見えます。ジョウビタキは冬鳥として全国各地の平地から山地の林、農耕地、市街地などで見られます。鳴き声は「ヒッヒッヒッカッカッ」という感じです。

こちらは別の日に撮影しましたが、スズメが柿を食べていました。



柿を食べるスズメを見かけ、冬鳥を見て、季節の移ろいを実感しました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-10 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

過去ログ

あなたは現在、2017年Octoberの過去ログをしています。

October24日Tuesday: 乞うご期待!?

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [iwamoto](#)

鳥の博物館の外壁には蝶の蛹がついていることがよくあります。タイルの間の凹みが、ちょうどよい広さなのかもしれません。特に多いのは植え込みにある食草を食べにくるジャコウアゲハですが、その他の種が見られることもあります。

先月、9月26日にもまた、蛹になる直前の姿を見つけることができましたが、今回はジャコウアゲハではありませんでした。



下から眺めてみますと、この模様。クロアゲハ、モンキアゲハ、シロオビアゲハあたりではないかと考えています。

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID: パスワード: このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)
google.co.jp



1日経つとこの姿（9月27日撮影）。



3日後にはもう、蛹の姿になっていました（写真は10月1日撮影）。



分布域から考えても、クロアゲハの可能性が最も高いのですが、近年は温暖化に伴う分布の北上と思われるナガサキアゲハも見られるようになりましたので、もしシロオビアゲハだったら面白い、などと夢想してしまいました。しかし、来年の春までは出てきません。結果は気になりますが、待たなければならないの

です。けれども、春の陽気とともに、知らないうちに飛び立ってしまうのかもしれない。たとえば羽化が、休館日で休みを頂いている日に起こったら…。せっかく楽しみにしていても、何か悲しいですね。そこで、イチゴパックを使ってトラップを作っていました（10月7日）。



今頃この中で、新しい成虫の体が作られているのでしょうか。昨日の超大型台風にも飛ばされずに残っていましたので、北風の吹き荒ぶ中でも、着々と変態が進んでゆくことを期待しています。

でも、もしかしたら、小さな寄生蜂が飛び出してくるだけだったりして…。そんな落ちだったら、悲しいですね。

あと、出入り口付近にあって、灰皿がすぐ近くにあるのも少し気になります。煙が流れていったらピクピク動いた、なんて愛煙家の某職員の方がおっしゃっていました。少し煙たいかもしれないけれど、どうか頑張って、育ててください！

October20日Friday: つかの間の晴れ間

カテゴリ: General

投稿者: saito



寒い雨の日が続いています。10月18日、久しぶりに晴天となりました。湿った地面から発生した朝霧を付けたクモの網が太陽に照らされて、よく目立ちます。雨続きで、餌になかなかありつかなかったかもしれません。樹の枝の空間を

覆い尽くすほど、高密度に網が張られていることが分かります。



この網の持ち主は、卵で冬を越すジョロウグモのようです。メスの近くで交尾のタイミングをはかっているオスも見られました。

10月23日は、二十四節気の降霜です。手賀沼では、コガモなど冬鳥が見られるようになりました（10月15日付けのブログ参照）。晴れた日には、ヒヨドリが群れで渡る姿も見られます。生き物たちも冬支度といったところでしょうか。

October15日Sunday: 冬鳥到着

カテゴリ: General 投稿者: someya

今回は我孫子市のお隣、柏市でみかけた鳥についてご紹介します。

同じ場所に9月20、26日、10月6日と観察に行きました。（写真は全て10月6日に撮影したものです）。

9月20日の午前中、手賀沼の上沼で20羽強のコガモを観察しました。「おー！コガモだ」と冬鳥の到着を喜びました。午後に柏のとある池へ。そこでは約80羽のコガモを観察しました。この日は私にとってコガモ祭(?)でした。

10月6日は3種のカモが見られました。中でもコガモは多く100羽以上いました。メスの羽のようなエクリプスのオスを観察するのに面白い時期です。



コガモのオス（左右）
エクリプス。まだ頭の緑の羽も目立たない。



ヒドリガモのオス
エクリプス。翼に注目。雨覆が白いのはオス（成鳥）の特徴。



ハシビロガモのメス

冬鳥のカモ以外にもこんな鳥を見ました。



コサギ



アオサギ



イソヒヨドリ (メス)



モズがイソヒヨドリを追い払いました。

October 7日Saturday: ドングリの季節

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

先日、自宅の屋根にコツコツと何かが落ちる音がするので見てみると、強風にあおられて、まだ未熟なコナラのドングリが落ちていました。



コナラのドングリ（写真は以前採集したもの）

日本にはドングリがなる樹木は約20種あり、代表的なものでは落葉広葉樹のブナ、クヌギ、ミズナラ、常緑広葉樹のシラカシ、スダジイ、マテバシイなどがあります。

ドングリは殻斗（かくと）と呼ばれる帽子のような部分で果実がつくられ、成熟すると果実の部分だけ落下します。自宅に落ちていたものは、まだ青いものや殻斗がついたものばかりでした。



殻斗の中で形成されるドングリ（写真はマテバシイ）

殻斗には様々な模様や形があります。



ライオンのたてがみのようなクヌギ



横しまが特徴のシラカシ



毛がはえているアラカシ



割れるタイプのスタジイ

秋が深まるにつれて、これからドングリの季節がやってきます。
殻斗の違いに注目して観察してみてもいいでしょう。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-09 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

過去ログ

あなたは現在、2017年Septemberの過去ログをしています。

September27日Wednesday: 渡る鳥たち

カテゴリ: **General** 投稿者: **odaya**

秋は鳥たちの渡りの季節。繁殖を終えた鳥、あるいは今年生まれた鳥たちが越冬地に向かって移動を始めています。多くの鳥が渡りをするのは夜間です。昼間に比べて気流が安定することや、渡りの方向を定位するための星が見えることなどが理由ではないかといわれています。

先月8月30日のプロ野球パ・リーグの西武×楽天戦で、鳥の群れがナイターの球場に飛び込んできて、試合が中断されたというニュースは記憶に新しいところです。なぜ夜間に鳥が野球場に飛び込んで来たのでしょうか？

この時の画像をネットニュースで確認すると、この鳥の群れはアカエリヒレアシシギというシギの仲間ということが分かりました。



▲海上で観察された夏羽のアカエリヒレアシシギ。5月 神奈川県。手前が雌で奥の3羽が雄。タマシギと同様に、雌が雄に求愛し、抱卵と子育ては全て雄が行い

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 観察会
- 観察会下見
- 昆虫
- 植物

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

我孫子市鳥の博物館
google.co.jp

ます。



▲内陸の農地に飛来した幼羽のアカエリヒレアシシギ。9月 茨城県。背に金色の筋が入るのが幼鳥の特徴。仙台の球場に飛び込んだのも多くはこの幼鳥でした。

アカエリヒレアシシギは普通は海上で生活する種で、ふつう内陸にはあまり飛来しません。繁殖地は北極圏のツンドラで、東南アジアからオセアニアまで長い距離の渡りをします。今回見られたのは、夜間に渡っている群れが渡りの途中で野球場の照明に引き寄せられて飛来したものと考えられます。

この出来ごとは、毎晩多くの鳥たちが夜空を南へ渡っていることを感じさせるものです。我孫子市をはじめ関東平野の低地でも、夜間に動いている鳥の声を聞くことができます。たとえばツグミの仲間は「ツイー」という声で鳴きながら渡るので、耳にする機会が多いです。私も21日夜にマミチャジナイと思われる地鳴きを聞きました。

少数派ですが、昼にわたる鳥たちもいます。ヒヨドリやツバメがその代表格ですが、これらの種の渡りは比較的容易に観察することが出来ます。10月のでがたんでは、ヒヨドリの渡りにスポットをあて、渡りの定点観測をしてみたいと思います。10月14日の10時に博物館の玄関前にぜひお集まりください。

September20日Wednesday: ヘビーな出会い

カテゴリ: General 投稿者: iwamoto

先月、稲穂も色づき始めた谷津ミュージアムへ行った時のことです。



歩いていると、散歩をされていた女性の方から「何を探しているのですか」と声をかけられました。その方の話によると、ここでは最近、ヘビを見かけなくなったとのこと。確かに、アオダイショウやシマヘビ、さらにはその餌となるトノサマガエルやトウキョウダルマガエルの姿も見かけませんでした。

けれども、それも悪くはないとお話でした。女性の方からすれば、ヘビに会わなくて済む方が有難いのかもかもしれません。しかし、私は寂しさも感じました。皆さんは、いかがでしょうか？

ところが、その方と別れてからさらに先へ進むと...



いました！駄洒落ではありませんが、ホッとしました (...発戸...)。この夏は子どもが咬まれてニュースになりましたが、マムシやヤマカガシではないことを確認すると、さらに細部についても証拠写真を撮るために、手で掴みました。ちなみにここではヘビは合計7種の記録があり、セミより種類が多いことになります。



鳥類は羽毛、哺乳類は毛が体表を覆っていますが、爬虫類は「鱗（ウロコ）」に覆われています。このため保温効果はなく、冬は冬眠します。同じウロコでも、魚類は「ヌルヌル」という擬態語が使われるのに対し、爬虫類は乾燥しているので「スベスベ」です。その感触を現代風に言えば、「超、気持ちいい」という言葉がピッタリです（北島康介さんではありませんが）。ヘビは木に巻き付いてスルスルと上り、鳥の巣を襲います。ヒナたちにとっては一番の天敵かもしれません。しかし、人間にとってはこの「巻き付く」という習性が、時には有難いのだと思います。ヘビは人間の手にもからまり、指の間を滑り抜けるときには独特な感触があります。つまり、ペットと触れ合いたい人には最高ののです。ヘビには根強い飼育ファンがいて、ペットショップでは餌用の冷凍マウスも売っています（レンジでチンして与えます）。



ちなみに、今回見つかったのはヒバカリという種類でした。上の写真にもあるように、頭の後ろにある白い線が特徴です。咬まれるとその日ばかりの命だということで、この名が付いたそうなのですが、実際には毒はなく、それどころかむしろおとなしく、掴んでもあまり咬まれることはありません。このため、ハンズオンの格好の教材になります。当館でも以前、別の場所で見つかった個体を少しの間保管し、てがたんの際に、子どもに触らせてあげたことがありました。しかし現代の小学生は、全員がまだヘビに触った経験が無かったと言っていました。



そのときのヒバカリは、生きたまま保管し続けることが難しそうだったので、結局、元の場所に戻しました。ヒバカリは一種類の餌だけだとそのうちに食べなくなりますが、いくつかの餌をバランスよく与えなければならぬ為、飼育は難しいといわれます。もし、あれだけおとなしくて、しかも餌も簡単に食べてくれたのなら、今頃はとっくに絶滅危惧種になっていたことでしょう。たとえば「ヒバカリ」「販売」と入れてgoogle検索すると、野生個体を採集して販売している業者のホームページも出てきます（一匹数千円...）。別に絶滅危惧種ではなく、違法でもありませんが、やはり商売をする人もいるくらいですので、うまく飼えるかどうかは別として、好きな人はいるのだと思います。確かに、よく見てみると、顔もどこか愛嬌があります。



私も飼ってみたいという誘惑にかられましたが、生き物を持ち出してはいけない場所だったので、逃がしてあげました。いつまでもこの姿が見られることを願いながら。

わざわざ強調することでもないかもしれないのですが、このような場所では決して持ち出してはいけません。たとえば、珍しい鳥を見つけると、ついつい止め

てはいけない場所に車を停めてしまうバードウォッチャーも中にはいますが、珍しい生き物に出会うと、人は我を忘れてしまうこともあります。しかし、このような場所では、保全のために地道な作業を続けられている方々がいらっしゃることを決して忘れてはいけません。思い出だけを、心の中に大事にしまって帰るべきなのです。

それにしても、握ったときの、指の隙間をすり抜けるあの独特な感触は、今でも手の中に残っています。

September12日Tuesday: 9月の「てがたん」で見た生き物たち

カテゴリ: General

投稿者: saito



9月9日てがたん日和の中、みんなで博物館周辺を散策しました。



早速、路傍のすみれの中にツマグロヒョウモンの幼虫を見つけました。博物館周辺では、2006年頃から普通に見られるようになった南方系のチョウです。



樹上からビロードハマキの幼虫がぶら下がり下って来ました。



今日は、イモムシ類がよく見られました。これはホシホウジャク（スズメガ科）の幼虫。



ハチに擬態したカノコガもいました。



エノキの幹にアリの群れが数カ所見られました。よく見ると口吻を突き刺して樹液を吸うアブラムシ（ヤノクチナガアブラムシ）を中心に、アリ（クロクサアリ）が群がっています。アリはアブラムシの出す甘露に集まり、結果的にアブラムシを守っています。



斜面林の下のわずかな湧水にサワガニの幼体（稚ガニ）がいました。



外来種アカボシゴマダラも出現。てがたんコースでは2014年頃からよく見られるようになりました。



ツマグロヒョウモンと同様、南方系のナガサキアゲハも飛んでいました。

博物館周辺のわずか500mの範囲内を散策しただけでも、生き物の季節変化や年変化、関わりあいがいろいろ観察できます。

「てがたん」に参加したい方は、毎月第二土曜日の午前10時までに鳥博玄関前に集合しましょう！

September10日Sunday: ガシャモクの花

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥博3階のベランダでは手賀沼周辺で見られた水草を栽培しています。その中の一つ、緑色の透き通る葉が美しいガシャモクの近況をご紹介します。

昔、ガシャモクは肥料に利用される程、手賀沼に繁茂していましたが、環境が変わったことにより、手賀沼では見られなくなりました。その後、埋土種子から発芽した貴重なガシャモクを株分けして鳥博でも栽培しています。最近花をつけましたのをご覧下さい。



ガシャモクの葉



ガシャモクの花
水面から顔を出しています



数日前はまだのびておらず、花は水面下にありました
(水から出して撮影しています)

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | [トップページに戻る](#) | Since 15,Mar.2008

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-08 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3 4 5

6 7 8 9 10 11 12

13 14 15 16 17 18 19

20 21 22 23 24 25 26

27 28 29 30 31

過去ログ

あなたは現在、2017年Augustの過去ログをしています。

August19日Saturday: 我孫子市をって渡るオオジシギ

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

オオジシギはシギやチドリの仲間で、長い嘴と短いあし、地味な羽色が特徴です。同じ仲間のタシギによく似ていますが、一回り大きく、長い翼を持っています。世界的な分布はタシギよりずっと狭く、日本とロシアの一部だけで繁殖しています。繁殖地では、「ズビーヤク、ズビーヤク」と鳴きながら急降下する際に尾羽を使い「ゴゴゴゴ...」と音を立てるディスプレイが見られます。



▲空中でディスプレイするオオジシギ (7月 北海道)

オオジシギは、冬になるとオーストラリア東部に渡ることが知られていましたが、昨年、GPS発信器を装着した追跡により、陸地には降りずに太平洋を一直線に南下して飛んでいくことが確かめられました（詳しくは、[日本野鳥の会のブログ](#)をご参照ください）。我孫子市では、春と秋の渡りの時期に水田や草地などに立ち寄りますが、繁殖期の様な派手な行動はせずに、草地や湿地の中にそっと潜んでいます。

検索

ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

 このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)google.co.jp



▲農道の草の中に身を隠すオオジシギ（8月 千葉県）

中継地には長くて1カ月ほど滞在し、その間に渡るための脂肪を体にたくわえます。4月にオーストラリアから渡ってきたばかりのオオジシギの体重は130gほどですが、8月に太平洋を越える旅に出る前の体重は260gほどに達します。短い期間に、自分の体重のおよそ2倍ほどにもなる脂肪を蓄積するのです。長い距離を渡るためのエネルギーを補給するための場所として、農地はオオジシギにとって重要なのです。

August12日Saturday: 夏の抜け殻

カテゴリ: General 投稿者: iwamoto

夏といえばセミですが、鳥の博物館の周辺では5種類のセミの声を聴くことができます。先日、その証拠を採集することができました。



一番よく見るのは次の2種類でしょう。



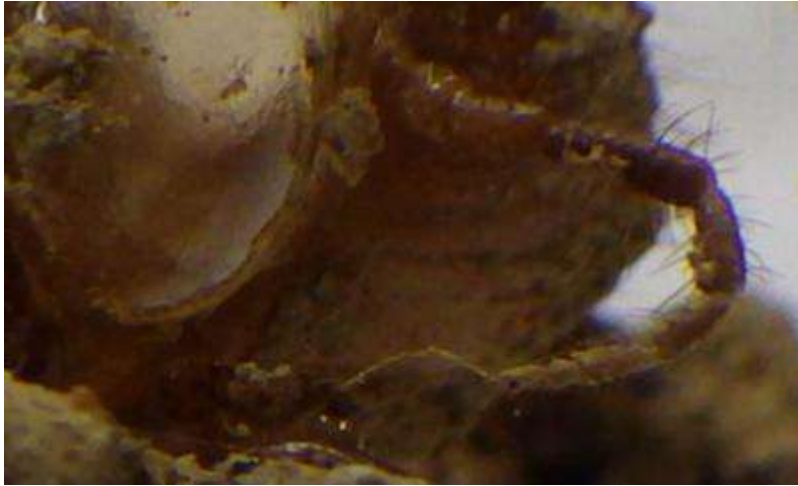
まずはアブラゼミ。



続いて、ミンミンゼミ。これらを見分けるポイントは、触覚です。



根元から数えて、2節目と3節目とを比べると、ミンミンゼミでは3節目の方が小さくなっています。



しかし、アブラゼミでは3節目の方がずっと長くなります。泥が付いていて少し分かりにくいのですが、泥が付いているのはすべて、同じ3節目です。他にも、注意して見てみると、より小型のゼミも抜け殻を見つけることができます。



ツクツクボウシ。表面は色が薄くてつや消しなのが特徴。水の館の近くで見つけました。



ニイニイゼミ。館の裏にある斜面林で見つけました。丸くて愛嬌があります。



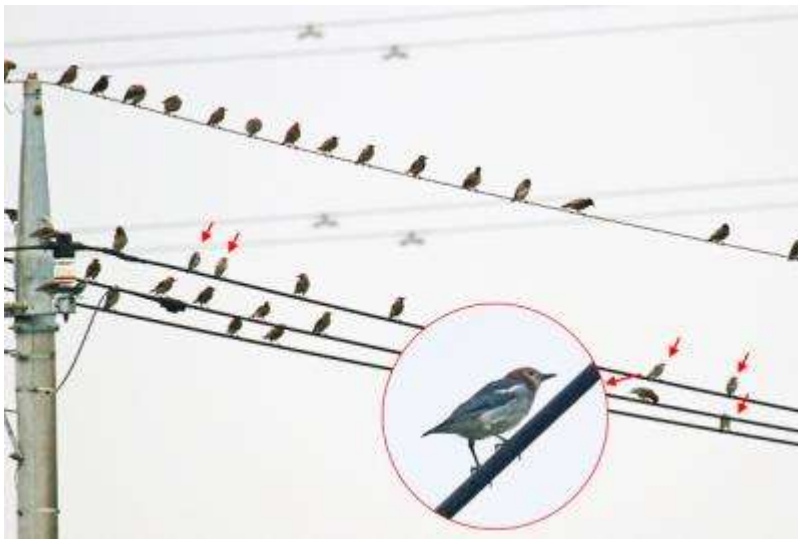
ヒグラシ。館の裏にある斜面林で見つけました。

この他に、我孫子市内では最近、クマゼミの鳴き声が聞こえるようになった場所もあると聞いています。そのうちいつか、館周辺でも6種類目が手に入るようになるのでしょうか。見つけたら、また報告いたします。

August 1日Tuesday: 手賀沼周辺季節の鳥情報（コムクドリ）

カテゴリ: General

投稿者: saito



7月29日、手賀沼上沼南岸の夕暮れ時、ムクドリの群れの中に、コムクドリが見られました。この写真の中に5羽写っています。

コムクドリは、北海道や東北北部で繁殖し、ボルネオやフィリピンで越冬する渡り鳥です。繁殖を終えた、あるいは繁殖できなかった個体が南下し始めたようです。

これからしばらくの間、ムクドリの群れの中にコムクドリをさがして楽しむことができます。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-07 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

過去ログ

あなたは現在、2017年Julyの過去ログをしています。

July30日Sunday: 水草植栽イベント (2017.7.22)

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [someya](#)

鳥博前の手賀沼親水広場内にあるミニ手賀沼で、生き物調べと水草植栽イベントがありました。ミニ手賀沼は手賀沼を模してつくった人工池です。まずはどんな生き物がいるのかみんなで探します。



私はみなさんがみつけてくれた生き物を種類ごとに分けていました。魚、エビ、オタマジャクシ...いろいろいました。稚魚もたくさんいましたよ。最高に楽しい時間で夢中でした♪

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



こちらはその中の一種、ツチフキです。この辺りでは移入種ですが、手賀沼でもよく見かけます。



みんなでどんな生き物がいるのか確認しました。



最後にミニ手賀沼で少なくなってしまうガシャモクを植えてイベントは終了しました、その後水草が鳥に食べられないよう防鳥ネットをかけました。
暑い中たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

July25日Tuesday: ヒナを拾わないで！！

カテゴリ: General 投稿者: iwamoto

鳥の博物館では毎年、鳥の繁殖期になると、次のようなポスターを掲示しています。



これは、巣を出た後のヒナが、巣から誤って落ちたものと誤解され、保護されてしまうのを防ぐためのものです。樹上に、草や枝を編んだ巣を設置する鳥は、巣が外敵に狙われやすく、ヒナが飛べるようになる前に、もう巣から出てしまいます。どれくらい早い時期に出るのかというと、これくらいです。



この写真は7月20日（木）に、街路樹の上に営巣していたヒヨドリが巣から降りたところを撮影したものです。市民の方からの連絡を受け、当館職員が現地へ行くことになりました。人通りの多い駐輪場にある樹だったので、自転車に踏まれてしまわないように、この後、お店の方をお願いして、わざわざヒナの周囲にコーンを立てて頂きました。



大勢の市民が集まってきて、何かと見守っていましたが、両親はすぐ後ろの樹の上で、興奮して羽を振るわせながら、人間に囲まれた我が子を心配そうに見守っていました。



その後、ヒナはいつの間にか姿を消したそうなのですが、その日は合計3羽が樹から降りてくるのを確認できたといいます。翌朝、様子を見に行ってみると、昨日の場所のすぐ近くで、ヒナを見つけることができました。



どうやら、ヒナはここまで自力で移動することができたみいでした。エサをねだって鳴いている上、親鳥も頻繁に飛来するので、簡単に見つけることができました。



このような姿を見ると、カラスに襲われないか、とか、猫に襲われないか、などとついつい心配になってしまうのですが、人間が誤って保護してしまうと、逆に、親鳥がヒナを見失ってしまい、エサを与えられなくなってしまいます。別に、ヒナは地面に落ちたからエサをもらえないわけではなく、親鳥はちゃんとヒナを見ていて、定期的にエサを運んできます。ですので、どうかヒナを見つけても、拾わずにそっとしておいてあげてください（当館の職員が行かなくても、大丈夫です）。

July23日Sunday: 夏休みイベント「しらべてみよう！フクロウのごはん」のご紹介

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

7月も後半に入り、我孫子の小学校では夏休みが始まりました！
早くも博物館には、夏休みの自由研究について何人かが相談に訪れています。
博物館では自由研究のヒントになるように、8月中の土日祝日に小中学生向けの
工作・観察イベント「夏の遊びと研究大集合2017」を下記のスケジュールで
開催する予定です。

鳥の博物館の夏休みイベント
夏の遊びと研究大集合2017

夏休みは鳥の博物館にあそびにいいところ！自由研究のヒントになるようなイベントがもりだくさん！
 開催日時：午後1時30分から約1時間
 対象：小学生以上（小学生未満は保護者と一緒に参加できます）
 定員：30人 *イベントは定員なし 申し込み：先着順（午後1時25分開始）

小・中学生は参加無料！

8月

- 5日（土）最強の動物「クマムシ」を探せ！
- 6日（日）フクロウホパークラフト*
- 11日（金祝）メダカでアクアリウム
- 12日（土）プーピーカモ笛*
- 13日（日）しらべてみよう！フクロウのごはん
- 19日（土）フクロウホパークラフト*
- 20日（日）ゴーストミミズク
- 26日（土）プーピーカモ笛*
- 27日（日）くるくる鳥コブター

鳥の科学作品展もやってるよ！
 夏休み期間中は自由研究の参考になるように、
 中学生の1・2年生の科学テーマにした研究作品を
 展示しています。ぜひ遊びに来てください！
 7月22日（土）から8月31日（木）まで

開催時間：午前9時30分～午後4時30分 休館日：毎月曜日（8月14日を除く）
 入館料：一般300円/小学生200円/小・中学生と70歳以上無料
 ウェブサイト：http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-museum/index.html

鳥の博物館 〒270-1145 千葉県市原市234-3 電話：0477-85-3212 FAX:0477-85-0639

今年から新しく加わった「しらべてみよう！フクロウのごはん」は、フクロウのペリット（消化できなかった骨や毛を固めて吐き出したもの）を実際にバラバラにして、どんな動物を食べているのかを調べるイベントです。



フクロウのペリット

生態系の中で頂点に位置するフクロウの食べ物を調べることは、餌動物のバリエーションを知り、環境の特徴を把握する手がかりになります。普段、なかなか体験できないイベントなので、皆さん、ぜひご参加ください。

July20日Thursday: よく見てみると...

カテゴリ: General 投稿者: iwamoto

今年5月の「てがたん」があった頃、我孫子市緑にて、家の玄関のドアから採集されたという、変わった生き物を頂きました。



ヤガタアリグモといい、アリによく似た（擬態した）クモの一種です（ハエトリグモ科）。脚の本数を数えてみてください。一番前の一对は、触角のようによく動かされているのですが、写真に撮って、動かない状態で改めて観察してみると、その付け根は頭ではなく、むしろ胸から伸びています。ですから、触角ではなくれっきとした脚で、8本脚なのです。けれども、アリのように小さい生き物ですので、よく見なければ、アリだと思って、気付かずに見落としてしまう人がほとんどでしょう。

ちなみに、博物館内でこれを紹介したところ、クモが嫌いな人には、「たとえアリに似ていても、駄目なものは駄目！」と避けられてしまいました。恐らく、クモだと気付かなければ、まったく平気だと思うのですが...

その後、7月上旬のある日、「またクモがいたわよ！」と、博物館の事務室内にいた小さな生き物を、つかまえて下さった方がいらっしゃいました。



確かにアリに似ています。...といいますが、こちらはれっきとした6本脚です（触角を御覧下さい。一番前の一对は、ちゃんと頭の先から伸びています）。残念ながら、昆虫に間違いありません。しかし、よく見てみますと、実は、こちらでもアリではなかったのです。ルイスヒトホシアリバチといい、メスには翅がないというハチの一種です（アリバチ科。参考文献：『日本の昆虫1400』文一総合出版）。

では、どこがアリと違うのでしょうか？『原色日本昆虫図鑑』（保育社）によれば、アリ科の働きアリは、胸と腹の間にこぶ状のもの（腹部第1節）があ

り（写真参照）、そのこぶが後ろにある腹部とはっきりと異なっていると書いてあります。つまり。昆虫は一般的には体が3つの部分に分かれているといわれますが、働きアリの場合には、その二つ目と三つ目の間に、こぶがあるのです。



しかし、博物館の事務室で見つかった虫にはそれが見られないということで（写真参照）、ここでもまた、よく似たものに騙されそうになりました（クモ×→アリ×→ハチ○）。しかし、そこで「クモ」とおっしゃって下さったのは、「普通のアリとはどこか違う」という雰囲気の違いが感じ取れたからに他なりません。そのような“勘”が働いたのは、確かに観察眼が鋭いといえます。



こういった“そっくりさん”を見破れるかどうかは、観察力が要求されます。しかし、逆に観察力を身につけることができれば、自然の少ない街の中であっても、意外とたくさんの秘密が隠されていることに気付くことができるのかもしれない。家の玄関のドアや、事務室の中といった、身近な場所にもいたのですから。

生物の多様性が低下していると思われるのは、単に野外の自然が減っただけではなく、もしかすると、観察者の好奇心や識別能力の低下も、意外と、無関係とはいえないのかもしれない。

July 9日Sunday: コジュケイの衝突事故

カテゴリ: General 投稿者: odaya

少し前になりますが、今年の5月24日のこと、天王台駅北口にある天王台行政サービスセンターから、「鳥が窓ガラスに当たったけど、直ぐに死んでしまった」という連絡をいただきました。市内での鳥の資料収集は、博物館の重要な業務のひとつですので、その日のうちに死体を引き取りに伺いました。



▲博物館で資料として登録したコジュケイの雄。

資料を見せていただくと、キジの仲間のコジュケイでした。コジュケイは中国原産の外来種で、今から100年ほど前に神奈川県で放鳥されたものが増えて、現在では東北地方から九州にかけての全国各地で普通に見られます。我孫子市でも、林の中から「チョットーコイ」と聞きなされる囀りを良く耳にしますが、本来は街の中にはほとんど出てこない鳥です。



▲コジュケイの脚。

脚には、鋭い蹴爪（けづめ）がありました。これはキジの仲間の雄だけにみら

れる特徴で、なわばりや雌をめぐる闘争に使われるものです。



▲コジュケイが衝突した天王台行政サービスセンターの窓ガラス。

このコジュケイは朝の8時ごろに、道路に面した窓ガラスに衝突したそうです（写真）。ガラスには道が反射しているため、向こう側に飛んで行こうとして衝突してしまったのでしょう。天王台駅北口にもっとも近い林でも、直線距離で400mほどの距離があります。そのため、コジュケイはこのあたりにいる個体ではないようです。5月はコジュケイの繁殖期に当たるので、雌を求めて林から林へと移動する途中だったのかもしれませんが。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-06 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

過去ログ

あなたは現在、2017年Juneの過去ログをしています。

June28日Wednesday: イソヒヨドリが巣立ちました

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [iwamoto](#)

先日、我孫子市内で繁殖調査を行っておりましたイソヒヨドリが無事、巣を離れることができましたので、報告させていただきます。ヒナが巣穴から出た後も、飛び回れるようになるまでは、巣穴のあった付近でしばらくの間、ヒナと親鳥が地上での生活を続けておりました。



しかし元々、地域に生息していなかった鳥でしたので、住民の皆様は初めて経験されることばかりで、驚きの声も聞かれました。特に、ヒナを守るために親鳥が威嚇をする様子は、他の鳥とは異なっていました。

検索

ナビゲーション

[前の月](#)[次の月](#)[今日の投稿](#)[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)[General](#)[お知らせ](#)[観察会](#)[観察会下見](#)[昆虫](#)[植物](#)

ログイン

ログインID: パスワード: このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)google.co.jp



まだよく飛べないヒナの近くに人間や犬が近づくと、親鳥が近寄ってきて、目の前で鳴き続けます。停めていた車や自転車の傍にヒナがいたのに気づかずに乗ろうとされた方や、少し飛べるようになったヒナが家のベランダの手すりにとまった方などは、見たこともないような鳥が突然、すぐ目の前で大きな声で鳴き始め、わけも分からず、びっくりされたようでした。



調査を行っている最中にモビング（わざとすぐ近くをかすめるように速く飛ぶこと）をされたり、小学生が威嚇されたりしたこともありました。しかし、猛禽類やカラスのように体当たりされることはなく、人が怪我をされたという話は聞いておりません。



温かく見守ってくださったお蔭で、最後は無事に飛べるようになり、他の場所へ移ってゆきました。普段から、住民の皆様には調査中も声をおかけ頂き、たくさんの情報をご提供頂きました。まことに有難うございました（下の写真は、親と同じ姿になったヒナです）。



なお、この鳥は同じ場所にまた営巣することもあります。別の場所では、今年2回目の繁殖を始めたという情報も寄せられております。もしかしたら、また調査に伺うことがあるかもしれませんが、今後ともよろしくお願い致します。

June26日Monday: ムクドリの親子連れと群れが目立ち始めました

カテゴリ: General

投稿者: saito



親鳥の後を追うムクドリの幼鳥2羽。公園の芝生の上で親鳥に餌をねだる姿がよく見られます。



ヒナと親鳥があちこちから集まり、しだいに大きな群れになって囀（ねぐら）をとるようになります。我孫子駅前の街路樹でも囀入りするムクドリが見られ始めました。

June22日Thursday: 鳥の博物館まわりの生き物紹介 (2017.6.22)

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [saito](#)



博物館職員通用門わきのエゴノキの幹に直径1.5cmのカミキリムシの仲間の脱出孔を発見。



付近にゴマダラカミキリの死体が落ちていました。ゴマダラカミキリは、幼虫の時に樹木の中に直径1~2cmの坑道を掘って生活しているそうなので、先ほどの脱出孔は、ゴマダラカミキリの仕業かも知れません。



博物館職員通用門のわきに植えたウマノスズクサには毎年ジャコウアゲハが卵を産みます。今年もたくさんの幼虫が孵化し、ウマノスズクサの葉をさかんに食べています。



ジャコウアゲハの幼虫は、終齢に近づくと、食草のウマノスズクサの茎をかじって枯らしてしまいます。なぜこのようなことをするのか、個体数制限のメカニズムなのか何なのか不思議です？

June17日Saturday: ミナミメダカの稚魚

カテゴリ: General

投稿者: someya

博物館の3階ベランダでは手賀沼周辺に生息している生き物を展示しています。ミナミメダカは春から9月位まで産卵が続きます。現在、卵を回収して稚魚を増やしているところです(稚魚は展示していません)。

稚魚は小さく針のように細いことから「針子」と呼ばれることもあります。夏休み期間中の土・日・祝日には、例年通り、イベントを開催します。メダカを取り上げる回もあり、増やしている稚魚をみなさんに差し上げます。メダカを迎

えるにあたって気をつけることや、メダカの現状など、知っているようで知らないメダカのお話もします。お楽しみに。

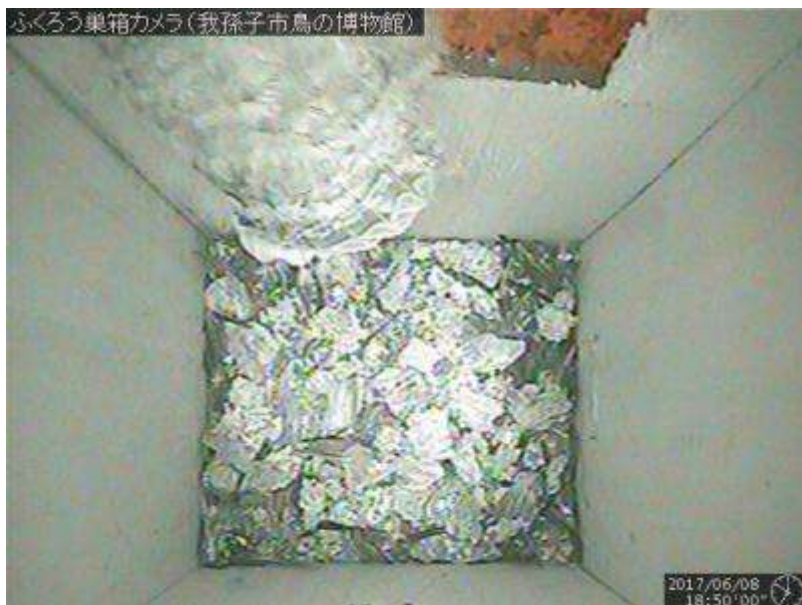


レンゲですくったメダカの稚魚

June 8日Thursday: 2羽目のヒナも巣立ちました！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

さきほど、18時50分ごろ、2羽目のヒナも巣立ちました！
昼ごろから激しく巣箱の中で動き回っていましたが、昨日より1時間ほど遅い巣立ちでした。



18:50'00 巣立ち直前のヒナ。



18:50'36 巣箱の縁に止まって...



18:50'37 落ちるように巣立ちました。

これで、今期も無事に2羽のヒナが巣立ちました。

June 7日Wednesday: **【速報】** 1羽目のヒナ巣立つ！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

今日6月7日18時前に、1羽目のヒナが巣立ちました！



17:50 1羽のヒナが入り口にとまって外を見ています。



17:57'40 足を踏ん張って...



17:57'41 外に飛び降りました！



18:00 ヒナは1羽になり、親が巣箱の様子を見に来ています。

June 3日Saturday: フクロウのヒナ2羽並ぶ

カテゴリ: General 投稿者: someya

フクロウのヒナが巣箱の出入口に立ち、巣立ちも間近です。
本日の夕方、もう1羽のヒナも出入口に立ち、2羽並んでいました。
並ぶと左の個体の方が大きく、尾羽ののびも進んでいることがわかります。



巣箱出入口に立ち、外を見るヒナの後ろ姿

June 3日Saturday: フクロウのヒナ、巣立ちまであと少しです

カテゴリ: General 投稿者: minou

カラスからの重圧もありましたが、フクロウのヒナたちはすくすくと成長しています。今日の午前4時25分ごろから、1羽目のヒナが巣箱の入り口に止まるようになりました。



巣箱の入り口に嘴をひっかけて



飛び上がりました！



しばらくの間、巣箱の外の様子を見ていました。

1羽目の孵化を確認したのは5月7日。あと数日でひと月が経ち、巣立ちの時期が近付いています。

巣立ちの瞬間を見られるのはいつになるのでしょうか。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-05 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

過去ログ

あなたは現在、2017年Mayの過去ログをしています。

May26日Friday: カラス警戒中！

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [muramatsu](#)

今日の昼頃、フクロウの巣箱のライブ映像を流している部屋から突然、外敵を警戒するメスの声が聞こえてきました。孵化して20日ほどが過ぎて、ヒナも体温調節ができるようになり、メスは巣箱の外にすることがほとんどです。一体何事だろうと急いでモニターを見に行ってみると、複数のハシブトガラスが巣箱の周りを飛び回り、メスが巣箱の中で必死にヒナを守っているところでした。



巣箱に急接近しては、近くの木に止まるという行動を繰り返すハシブトガラスに対し、メスは「カチカチ」と嘴を鳴らしながら首を伸ばして巣箱の外の様子を伺っていました。おそらく外ではオスが巣を防衛していたのでしょう。

検索

検索

ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- [我孫子市鳥の博物館](#)
- google.co.jp



巣箱の入り口カメラにはハシブトカラスが飛び回る姿が。



首を伸ばして外の様子を伺うメス。

これまでも巣箱近くでカラスの鳴き声や飛ぶ姿がカメラで確認されていましたが、今回のように巣箱に急接近する行動は初めて観察されました。カラスがフクロウのヒナを狙ったのか、カラスの巣立ちヒナが近くにいる防衛のために巣箱を襲ってきたのか。理由ははっきり分かりませんが、しばらくするとカラスはいなくなり、メスも2時間くらいすると巣箱から出て行きました。とりあえず安心です。

巣立ちの時期はおそらく5月末あたりでしょう。
それまで無事に育ってくれることを願っています。

May25日Thursday: イソヒヨドリ調査中

カテゴリ: **General** 投稿者: iwamoto

鳥のオスが繁殖期に求愛やなわばりの占有をアピールするために出す鳴き声を「さえずり」といいます。たとえば、有名なものではウグイス（写真参照）の「ホーツ、ホケキョツ」などがそれにあたります。



さえずりは、美しい声や特徴のある鳴き方のものが多いのですが、そのような声のすべてがさえずりとは限りません。たとえば、イソヒヨドリ（写真参照: オス）は美しい声でよく鳴きますが、注意して聞いていると、実は繁殖期以外でもよく耳にします。また、よく観察していると、メスも同じような声を出すことがあります。



実は我孫子市内でも、注意していると、我孫子駅周辺でイソヒヨドリがビルの屋上にある看板や避雷針にとまって鳴いているのを聞くことができます。



イソヒヨドリはその名のとおり、海岸に多い鳥ですが、近年、市街地での繁殖が確認されるようになってきています。関東ではまだそこまで多くはないのですが、関西では、内陸部の市街地でもよく見られるようになってきている地域があり、私が前に住んでいた和歌山県では、住宅地でもヒヨドリと同じくらい身近に見られるようになっていました。この鳥はオスとメスで模様はかなり異なっており、メス（写真参照：手前）は海岸の岩場の景色に溶け込めそうな色をしている一方で、オスはきれいな青色とレンガ色をしています。



その色が鮮やかなので、初めて御覧になった方は、一見すると、かごぬけ鳥や外来種と間違われてしまうかもしれません。しかし、実は在来種（日本にもともいた鳥）であるというのが興味深いところです。

たとえば外来種の場合には、オオクチバス（ブラックバス）やセイタカアワダチソウなどのように、海外から生物が持ち込まれたことによって、それまで住んでいた生物が捕食に遭ったり、競争に敗れて生息地を奪われてしまうことがあります。そして、地域の生態系を変えてしまうことが心配されています。しかし

イソヒヨドリの場合には、人為的に持ち込まれたわけではなく、むしろ自分から飛来しましたので、地域の環境のほうが先に変化したことによって、この鳥が侵入できる条件が揃ってきたと考えるのが良さそうです。

イソヒヨドリは、元々は海岸に生息し、磯にある岩の隙間などに営巣します。



しかし近年、コンクリートの高層建築が増えたことで、それに近いような隙間が都市の中にも増えてきたと考えられます。詳しいことはまだ分かっていませんが、最近になって、全国を対象にしたイソヒヨドリについての調査が行われるようになってきています。その中で当館でも、今年度から我孫子駅周辺での調査を本格的に開始しました。



それにしても、元々、海岸に多いはずの鳥がいったい何故、市街地でも繁殖をするようになったのでしょうか？市街地に営巣する利点の一つは、天敵が少ないことにあると考えられています。市街地には“ヒト”という、ヒト以外の生物にとってはある意味、地球上で最も恐ろしいと思われる生物が、高密度に生息しています。そして、肉食動物の中にはヒトを避けるものがあります。それを利用して、たとえばツバメのように、わざわざヒトがいる場所を好んで営巣に利用する鳥もいます。ツバメは、基本的に空家には巣を作りませんし、閑静な住宅街よりもむしろ、人や車がよく通る場所で多く巣が見つかります。



しかし、市街地には逆に、欠点もあります。最大の問題点は、自然が少ないので食物が少ないことと考えられます。そこで当館では現在、イソヒヨドリの巣の前で親鳥の帰巣を待ち、ヒナのためにエサをくわえてきたところを写真に撮って、イソヒヨドリの市街地における食性についてのデータを集めています。



ただし、街の中で建物に向けて望遠鏡やカメラをかまえている様子は、通行人にはかなり異様な印象を与えてしまいます。幸い、我孫子市民の皆さまは大変協力的で、営巣地にお住まいの方も撮影を快く許可して下さいました。本当に助かっております。お陰様で、調査は順調に進んでおりますが、決して怪しい者ではございませんので、我孫子駅周辺で「鳥の博物館」と書かれた腕章（写真参照）をしている者を見かけましたら、どうか、見かけてもそっとしておいて頂きますと幸いです。



May24日Wednesday: 手賀沼オオヨシキリ調査

カテゴリ: General

投稿者: odaya



5月24日、毎年行っているオオヨシキリのさえずり個体数のカウント調査を市民スタッフのみなさんと一緒に行いました。この調査は、手賀沼と手賀川でさえずっているオオヨシキリの雄の数をカウントするもので、1980年代から続けられています。



さえずるオオヨシキリの雄。雌やなわばりを張らない雄は囀りません。

今年も5つのグループに分かれて、手賀沼沿いを歩いてカウントを行いました。今年手賀沼内で73羽、手賀川で62羽がカウントされました。ここ数年では比較的多い水準ですが、調査を開始した当時の200羽を超える個体数には及びません。今後もカウントを続けて、オオヨシキリの個体数のトレンドを追っていきたいと思います。



調査中、手賀川沿いの遊歩道に、タヌキのため糞があるのを見つけました。昆虫の翅やザリガニの殻が入っていて、この時期は比較的動物を食べているのが分かりました。

May21日Sunday: 春に鳴くキリギリスのなかま

カテゴリ: General 投稿者: iwamoto

ツバメをはじめとする夏鳥たちが次々と渡ってきて、さえずる声が増しに賑

やかになっています。その中でも特に変わった声を出すのは、ウグイスの仲間のヤブサメでしょう（写真参照）。



この鳥のさえずりは、まるで虫が鳴いているかのように、高くて早いテンポです。「紛らわしくて困る」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、ご安心下さい。虫たちが鳴くのは主に秋です。ですから、たとえ似ていても、時期が違います。

ただし、わずかな例外もあります。夜、耳を澄ますと、実は今の時期でも、「ジーツ」という大きな音がどこからか聞こえてきます。その正体は、キリギリスの仲間のクビキリギリスです（写真参照）。



体長は5.5~6.5cmと、トノサマバッタと同じくらい。頭は尖っています。ちなみに私は子どもの頃、これを読み間違え、長い間、「クビキリギリス」だと思い込んでいました。しかし本当は、「リ」は一つしかありません。

けれどもそうだとすると、なんとも縁起が悪いというか、季節感の無い名前だと思うのは、私だけでしょうか？フレッシュマンが入社して、新たな旅立ちの

季節だというのに、いったい何故、「首切り」なのでしょう？

名前の由来については諸説あるそうなのですが、日本直翅学会の河合正人さんによれば、この虫はどうしたわけか、口のまわりがあざやかな赤い色をしており、「血吸いバツタ」とか「生姜食い」と呼ばれることがあったといえます。また、指でつかむと大きなキバを開いてかみつこうとします。その様子から、一度かみつくと首を引きちぎられても離さないとされ、そこから「クビキリギス」という名がつけられたといえます。ただし、本当に離さないのかどうかは、実際には諸説があって、学会にはそれを疑問視する人もおり、「クチベニギス」という別の名前を提唱した人もいたといえます。しかし、残酷な実験を繰り返してまで、真実を検証しようという気にはなれなかったのでしょうか、一度定着した名前を変えようというところまでは至らず、結局、今の名前のまま使うことにしたそうです（ちなみに鳥類でも、たとえばブッポウソウとコノハズク等、実際に即していない種名の例は見られます）。



しかし、そうだとすると、縁起の悪い名前ですので、わざわざ春に鳴いてくれなくてもよさそうなものです。そこには、この虫の生態が関係していました。多くのキリギリスの仲間は、秋に産卵して卵の状態越冬し、春に孵化して夏の間成長するため、秋に鳴きます。しかし、クビキリギスは成虫のまま越冬するため、春から既に成虫がおり、早いうちに鳴いていたのです。

イソップ寓話では、キリギリスは働きアリと比較され、怠け者とされてしまっています。けれども実際には、その親戚には越冬する種もいたのです。『アリとクビキリギス』という寓話の番外編を誰かが書いてみたら、面白いかもしれませんね。

ちなみに河合さんによれば、キリギリス類は実際には仲間同士の交信のために歌っているのであり、あくまで子孫を残すための手段であって、決して、遊び呆けているわけではありません。また、元を辿ると、最初はアリとセミの話だったそうなのですが、ヨーロッパ北部へ伝わった際に、当地にセミは広く分布していないので、たくさんいるキリギリスに変えられてしまったという経緯もあったそうです。キリギリスからしてみれば、勝手にマイナスのイメージを作られてしまい、迷惑な話ですよね。



クビキリギスが実際に勤勉なのかどうかは分かりませんが、どうも人間社会は、ステレオタイプ（紋切型）のイメージで物事を捉えてしまいがちです。「キリギリス=秋」。しかし、私達が日常生活の中でよく間違えてしまう原因は、固定観念にとらわれ過ぎているところにもあるのかもしれない。そのことを気付かせてくれる機会が、自然観察の中にはあるのではないかと私は思っています。

ちなみに、このクビキリギス、我孫子市内では、自然の多い場所へ出かけてゆかなくても、住宅街など身近な場所でも見られます。写真の個体は、市民図書館本館の向かいにある100円ショップの駐車場（写真参照）で見つけました。



ただし、街の中では大人が懐中電灯を持って、夜間に野外でじっとしている様子は、傍から見るとかなり怪しいです。他人の家の庭や生け垣の前では、決して観察しないようご注意ください。

May11日Thursday: 鳥の子育てまっさかり

カテゴリ: General 投稿者: saito

5月9日付けブログで、フクロウのヒナ2羽誕生をお知らせしましたが、博物館

周辺では、いろんな鳥たちが子育ての季節を迎えています。

シジュウカラがひっきりなしに餌を運んでいました。どこか樹の洞か隙間を見つけて子育てしているようです。



シジュウカラの餌運び1 (アシナガグモの仲間)



シジュウカラの餌運び2 (セグロシャチホコ幼虫)



シラカシの樹上のハシボソガラスの巣の中にヒナの姿が見えました。



5羽のヒナを連れたコブハクチョウを見かけました。



博物館付近の建物の壁面で、ツバメも営巣中です。

※毎月恒例の自然観察会「てがたん」、今月5月13日（土曜日）は「鳥の子育て」がテーマです。10時に鳥の博物館玄関前に集合、参加費100円、正午まで鳥の博物館周辺をご案内します。興味ある方はぜひご参加ください。

May 9日Tuesday: もう1つの卵も孵りました！

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

フクロウの2つ目の卵も無事孵りました！



5月8日の様子

これから巣立ちまでの約1か月間、親鳥は大忙しです！
しばらくはメスが巣箱に留まってヒナの世話をするので、
オスは、メスとヒナ2羽分の餌を運ばなくてはなりません。
がんばれ、お父さん！

May 7日Sunday: フクロウの第1卵目が孵りました！

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

博物館で観察中のフクロウの初卵が5月6日に孵りました！
4月5日から抱卵を始めたので抱卵期間は約1ヶ月です。
おそらく、もう1つの卵もすぐに孵化するでしょう。



6日の1時台はまだ孵化していませんでした。



18時台にメスが体にとまったハエを追い払おうと体を動かした時、一瞬ヒナの姿が確認できました。



見えにくいですが、その後、メスが外に出た時に
ヒナの姿がちゃんと確認できました。

今年も餌をねだるヒナの元気な姿が見られるのが楽しみです！

May 6日Saturday: フクロウ巣箱、ヒナの声？

カテゴリ: General 投稿者: someya

フクロウ巣箱の様子です。先日孵化間近とお知らせしましたが、まだヒナの姿は確認できません。親フクロウ（メス）が巣箱の中にいる間はヒナの姿を確認するのが難しく、もどかしい～。

今日は「キュキュキュキュキュキュ」とヒナらしき小さな声が聞こえます。



フクロウが体を動かした瞬間、お腹の下に一つ卵が見えました。
確認のチャンス！と思いましたが、残念ながらヒナの姿は確認できませんでした。

ヒナの姿はいつカメラにうつるのか。その瞬間をお見逃しなく。

May 6日Saturday: 手賀沼周辺の鳥たち (2017/5/4)

カテゴリ: General

投稿者: odaya

5月4日の勤務後に、手賀沼周辺の水田で見た鳥たちの生活をご紹介します。



ヤナギ類の木のてっぺんで囀るオオヨシキリの雄。

手賀沼周辺での今期の初確認は4月18日でしたが、大分個体数が増えてきました。今は雄同士の縄張り争いが盛んな時期で、あちこち飛び回って追い掛け合う様子が見られます。



餌をくわえたままホバリングするヒバリ。

よく見ると、嘴に餌をくわえています。巣のヒナに餌を運んできたのですが、観察者（私）が見ているので、そのまま降りると巣が見つかってしまいます。そのため、直ぐに地面に降りずに鳴きながら困っていました。こんな様子を見かけたら、すぐにその場を離れましょう（私も写真を2, 3枚撮ってすぐに離れました）。



ねぐら入りの場所を探して飛び回るチュウシャクシギの群れ（左下の小さい2羽はムナグロ）。

堤防を歩いていると、「ホイピピピ...」と美しい声が上空から振ってきました。チュウシャクシギの群れです。チュウシャクシギは日本では春と秋に通過する旅鳥で、ちょうど今頃が渡来数のピークです。夜間には集団でねぐらをとる習性があり、夕方にはねぐら入りの場所を探して集団で飛び回ります。

繁殖する鳥から旅鳥まで、様々な鳥が見られるこの季節、ぜひ鳥の博物館の観察会にも足をお運びください。

<http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/gyoji/event/index.html>

May 4日Thursday: フクロウの孵化間近？

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

カメラを設置した巣箱のフクロウが抱卵を始めてからおよそ1カ月。そろそろ卵が孵化するところです。順調に発生が進んでいれば、今日から明日にかけて孵化が見られるかもしれません。フクロウ巣箱の映像にご注目ください！

<http://field.bird-mus.abiko.chiba.jp/strix/>



5月4日1時20分のフクロウ巣箱の様子。2つの卵が見えます。

May 2日Tuesday: オスのフクロウがエサを運んできました

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥博フクロウ巣箱の様子です。

14時前後にフクロウのオスが巣箱の入口にとまっていた。飛んでいってしまった後にまた巣箱の入口に戻ってきました。

顔をこちらにむけると...



ジャーン！小型のネズミをくわえていました。メスのためにエサを運んできたところ です。



巣箱の中にいるのはメスです。ネズミを受け取っています。

「キュキュキュキュキュキュ」 とヒナが出すようなかわいらしい声で受け取って食べていました。

鳥博では音声もきくことができます（ホームページでは音声を聞くことができません）。



メスがネズミをくわえています。この後、あっという間に飲み込んでしまいました。

フクロウ巣箱カメラのコーナーをクリックしてご覧下さい。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-04 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

過去ログ

あなたは現在、2017年Aprilの過去ログをしています。

April30日Sunday: どこから来たの？空き地の植物たち

カテゴリ: **General** 投稿者: **muramatsu**

鳥の博物館の向かいにある水の館がリニューアルのため、昨年からの工事が続いてきましたが、いよいよ6月にオープンすることになりました。新しくなった水の館内にはレストランや農作物直売場の他に手賀沼の環境について学べるスペースなどがあります。今回のリニューアルで、博物館前の駐車場も広がったので見に行ってみると、隣の盛り土した裸地にさっそく様々な植物が芽生えていました。



検索

ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)

google.co.jp



どんな植物が生えているでしょう。



荒地や裸地でよく見られるシロザ



世界中に広く分布するスズメノカタビラ



花が咲いていたオオイヌノフグリ

他にスギナ、ギシギシの仲間、花が咲いていたものではホトケノザなどが見られました。そして数は少なかったですが、アヤメ科の植物も見られました。



葉が二つ折りになって裏面が表側に見える単面葉はアヤメ科の特徴のひとつ。

一体どこから来た土なのだろうと、ちょっと考えてしまいました。

これからまた違う植物の芽生えがあるかもしれません。

しばらくは観察のしがいがありそうです。

April23日Sunday: オオバン調査を実施しました

カテゴリ: General 投稿者: minou

4月19日に市民スタッフと共同でオオバン調査を行いました。遊歩道を歩き、手賀沼のオオバンの個体数をカウントしました。今回見られた個体数は134羽と、昨年の124羽に続き、100羽を越えました。



ヒメガマをちぎって食べていたオオバン



ユリカモメは頭の黒い夏羽へ換羽している個体もありました。



ツツジの植え込みの上でさえずっていたホオジロ。



カラスノエンドウの中にいたカワラヒワ。花を食べているようでした。



サクラの木にとまるコムクドリも見られました。

April20日Thursday: ミナミメダカの卵確認

カテゴリ: General 投稿者: someya

最近急に暖かくなってきました。暑い位です。
鳥はく3階のベランダでは手賀沼でも見られるミナミメダカを飼育しています。
今シーズン初めて卵を採集できました。
まだ透き通っていて、キラキラしてきれいです。



透明の粒がミナミメダカの卵（緑のものは藻です）

April16日Sunday: 手賀沼のヒクイナ、戸を叩く

カテゴリ: General 投稿者: odaya

ヒクイナは、古くから初夏の風物詩としてさえずりが親しまれてきましたが、個体数が減少し、身近な鳥ではなくなってしまいました。しかし、手賀沼ではここ数年、複数の場所で冬から初夏にかけて観察されています。



手賀沼遊歩道沿いで4月2日に見られたヒクイナ。

4月2日に手賀沼遊歩道沿いを歩いていると、「キョ、キョ、ココココ...」というさえずりが聞こえたので、しばらく待っていると、茂みの中からヒクイナが姿を現しました。「キョ、キョ」の部分はカイツブリなどにも少し似ていますが、「ココココ...」とテンポが速くなる"戸を叩く"と表現される部分はとても特徴的です。



ケレケレケレ...と鳴きながら雌と思われる1羽を追いかける雄。しばらくいるいな声を出しながら姿を見せてくれました。

これからの時期、良くさえずるので探しやすくなります。手賀沼沿いを歩くときには耳を澄ましてヒクイナの"戸を叩く"さえずりを聞いてみましょう。

April 9日Sunday: フクロウ巣箱、2卵目確認

カテゴリ: General 投稿者: someya

フクロウ巣箱情報です。4月8日(土)18時30分、2卵目を確認しました。鳥博ホームページからフクロウの子育ての様子を見ることができます。ぜひご覧ください。

フワフワのヒナに会えるのが楽しみです♪



April 5日Wednesday: 【速報】 巣箱のフクロウ1卵目を産卵！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

さきほど巣にこもっていた雌が巣を出て行き、1卵が産まれているのが確認でき

ました！



April 5日Wednesday: 今年もフクロウが巣箱に入りました！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

今朝5時ごろから、フクロウが巣箱に入り、座り込んでいます。今日の夜には産卵が確認できるかもしれません。今年もフクロウの繁殖のようすが観察できそうです！



4月5日朝の巣箱内の様子。雌（推定）が座り込んでいます。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-03 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

過去ログ

あなたは現在、2017年Marchの過去ログをしています。

March31日Friday: 手賀沼のオオハクチョウ

カテゴリ: [General](#) 投稿者: [odaya](#)

今年も昨年につづいて、手賀沼にオオハクチョウが飛来しました。2月から最大12羽が見られていました。その群れは3月中旬までに既に渡去したようですが、3月18日から手賀沼でオオハクチョウの幼鳥3羽が観察されていました。29日の夕方には鳴き交わしながら飛び回る様子が見られ、30日には観察されなかったため、こちらも渡去した可能性がありそうです。

今年は下沼のハスの群落やその対岸で見られていました。来年以降も手賀沼がオオハクチョウの飛来地となっていくか、注目していきたいと思います。



3月18日ごろから見られていたオオハクチョウの幼鳥3羽のうちの2羽（画像提供：長妻輝夫さん）。

後日頂いた情報では、30日朝には確認されたとのこと。本日4月2日には、下沼の高野山新田周辺では見られませんでした。

March25日Saturday: 標識カルガモ

検索

ナビゲーション

- [前の月](#)
- [次の月](#)
- [今日の投稿](#)
- [過去ログ](#)

カテゴリ

- [全てのカテゴリ](#)
- [General](#)
- [お知らせ](#)
- [観察会](#)
- [観察会下見](#)
- [昆虫](#)
- [植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

リンク

- [我孫子市鳥の博物館](#)
- [google.co.jp](#)

カテゴリ: General

投稿者: odaya



昨年5月に我孫子市若松の公民館（アピスタ）で、カルガモの家族が敷地内から出られなくなっているという通報がありました。行ってみると、2階の中庭で繁殖した家族が閉じ込められてしまっているようでした。そのままにしても飛び降りて出られたかもしれませんが、ヒナが弱ってしまうとかわいそうなので、親とすべてのヒナを捕獲して手賀沼に放しました。

その際に、雌親に環境省の金属足環を装着していたのですが、鳥博友の会の長妻さんによって手賀沼公園で足環によって再確認されました。このことから、手賀沼周辺で繁殖するカルガモが少なくとも3月には戻ってきていることが分かります。また、この個体の生殖羽になる前の羽毛が雌のものであることも分かりました（カルガモは雌だけで子育てをします）。

カルガモのような身近な鳥でも、まだ分かっていないことが多く残されていて、標識調査を通じて新しい事実が判明することもあるのです。



2016年5月20日に手賀沼公園で足環を装着され、2017年3月16日に写真撮影されたカルガモ雌成鳥。足環番号11A-28460の一部が読めます。（画像提供：長妻輝夫さん）

March16日Thursday: 鳥博巣箱のフクロウ

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥博巣箱フクロウの近況です。
巣箱を訪れる回数が増えてきました。
子育てへの期待が高まります。
鳥博ホームページでは巣箱の今の様子と過去の様子をご覧いただけます。ぜひチェックを！



March10日Friday: コブシの花が咲き始めました

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥博入口にはコブシの木があります。
早春に花が咲くので、農家の春の作業の目安とされ「田打ち桜」とも呼ばれます。
よく似たモクレンはコブシよりもやや大きめな花が特徴です。



まだつぼみばかりです



開いたつぼみ



上の方には少し開いた花がありました
花びらは6枚

March 3日Friday: オカメザクラ咲いています

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥の博物館の職員通用口近くにあるオカメザクラの花が咲いています。
オカメザクラは早咲きのサクラで、カンヒザクラとマメザクラを交配してつくった品種です。

つぼみも少しありますが、ちょうど見頃をむかえています。

撮影中、サクラを狙ったメジロが木にとまりましたが、すぐに飛び立ってしまいました。

食事の邪魔になってはいけませんので退散しました。



濃いピンク色の花が目立ちます



花が下を向いているのが特徴
がくは濃い紅色

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-02 >

日 月 火 水 木 金 土

1 2 3 4

5 6 7 8 9 10 11

12 13 14 15 16 17 18

19 20 21 22 23 24 25

26 27 28

過去ログ

あなたは現在、2017年Februaryの過去ログをしています。

February14日Tuesday: 鳥博フクロウ巣箱ウオッチ、今年も健在！

カテゴリ: General 投稿者: saito



鳥の博物館のホームページ上で公開しているフクロウ巣箱カメラに、フクロウが時々現れるようになりました。今年も、子育てが期待できそうです。

February12日Sunday: 博物館周辺鳥情報

カテゴリ: General 投稿者: saito

検索

検索

ナビゲーション

前の月

次の月

今日の投稿

過去ログ

カテゴリ

全てのカテゴリ

General

お知らせ

観察会

観察会下見

昆虫

植物

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

我孫子市鳥の博物館

google.co.jp



タシギが4羽、博物館近くの湿った田んぼで食事中（2017.2.7）。近づくと、固まって背景に溶け込んでしまいました。



博物館の前で、アリスイの姿を今冬も見つけることができました（2017.2.8）。

とりはく自然通信

我孫子市鳥の博物館

< 2017-01 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

過去ログ

あなたは現在、2017年Januaryの過去ログをしています。

January16日Monday: 手賀沼調査

カテゴリ: **General** 投稿者: **someya**

本日の午前中、手賀沼水面センサス調査を行いました。毎月一回、手賀沼にどのような鳥がどの位いるのかを調査しています。その際にみかけた鳥を少し紹介します。



手賀沼の水が凍っていてこちらまで近づけずに引き返すオナガガモ（奥）
ユリカモメ（手前）は氷の上に降り立ちました

検索

検索

ナビゲーション

[前の月](#)
[次の月](#)
[今日の投稿](#)
[過去ログ](#)

カテゴリ

[全てのカテゴリ](#)
[General](#)
[お知らせ](#)
[観察会](#)
[観察会下見](#)
[昆虫](#)
[植物](#)

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

[我孫子市鳥の博物館](#)
google.co.jp



滑りながらも氷の上を歩くユリカモメ



ユリカモメ整列



2羽のハヤブサを発見
左の小さな個体がオス、右の大きな個体がメス



あっ！飛んで行ってしまった



と思ったら、戻って来て水浴び



こちらの様子が気になるようでした